

埼玉病薬

Vol.29 No.3 2022

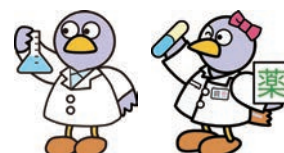


北里大学メディカルセンター



一般社団法人

埼玉県病院薬剤師会



目 次

【巻頭言】

ウィズコロナ時代の学生教育について

一般社団法人 埼玉県病院薬剤師会 理事 渋谷 清…………… 1

【新会長就任の挨拶】

会長就任にあたり

一般社団法人 埼玉県病院薬剤師会 会長 町田 充…………… 2

【会員のひろば】

埼玉県東部エリア3施設でのオンライン実習に関する取り組み紹介

草加市立病院 薬剤部 平野 航…………… 4

薬剤師採用における「奨学金制度」の紹介

一般社団法人 埼玉県病院薬剤師会

広報委員会 委員長 渋谷 清…………… 13

<学会報告>

～日本薬学会第142年会～

日本薬学会第142年会報告

国立病院機構 埼玉病院 薬剤部 望月 悠莉…………… 17

～日本病院薬剤師会関東ブロック第52回学術大会～

Web開催による新任薬剤師研修会－座談会の取り組み

一般社団法人 埼玉県病院薬剤師会

生涯研修センター総合研修部会 北畑 智英…………… 20

<私の母校>

私の母校～慶應義塾大学～

IMSグループ 春日部中央総合病院 薬剤部 城山 今日子… 29

<医療の質・安全部会から>

適応外使用に対する安全な使用に向けた薬剤師の関わり

上尾中央総合病院 薬剤部 新井 亘…………… 32

【薬局業務紹介】

北里大学メディカルセンター薬剤部の業務紹介

北里大学メディカルセンター 薬剤部 渋谷 清…………… 34

【会員へのお知らせ】

「薬と健康の習慣」の実施について…………… 47

【会のうごき】	51
【理事会開催報告】	54
令和3年度第6回理事会議事録 (2/15)	
令和4年度第1回理事会議事録 (4/19)	
【委員会開催報告】	60
第2回薬事運営委員会・実習委員会議事録 (1/14)	
第1回選挙管理人会議事録 (3/15)	
【生涯研修センター報告】	64
第64回評価委員会 (1/20)	
第65回評価委員会議事録 (3/17)	
第36回地域研修部会議事録 (1/27) -	
第31回専門研修部会 (がん領域) 議事録 (1/12)	
第15回専門研修部会 (感染制御領域) 議事録 (2/4)	
第34回専門研修部会 (精神科領域) 議事録 (1/6)	
第6回妊婦授乳婦・小児科領域研修部会議事録 (3/2)	
第135回専門研修部会 (輸液・栄養管理領域) 議事録 (2/8)	
【事務局だより】	75
【お知らせ】	77
【原稿募集】	79
【編集後記】	80

ウィズコロナ時代の学生教育について

一般社団法人 埼玉県病院薬剤師会 理事
渋谷 清

令和4年（2022年）5月16日の通常総会で理事を拝命することになりました北里大学メディカルセンターの渋谷清と申します。町田充新会長のもとで広報委員会委員長を引き続き担当させて頂くことになりました。広報誌の刷新、新たな情報発信のツール作り等を若い方々の協力のもとで築きあげて行きたいと思っておりますので、ご支援いただけますよう宜しくお願い申し上げます。

さて、私は、北里大学メディカルセンターで薬剤部長として臨床現場に携わると共に、北里大学薬学部の教員として学生の教育・研究に従事しております。そこで、この書面をお借りして、埼玉県病院薬剤師会会員の先生方に、本学学生ばかりでなく、多くの薬学生が病院実務実習等でお世話になっていることに厚く御礼申し上げさせて頂きたいと思っております。2年以上に渡り、新型コロナウイルス感染症が継続し、未だ収束が見えておりません。多くの施設で職員が疲弊し、さらに職員の感染者数が増加する中で、深刻な人員不足となっている状況にもかかわらず後進の育成にご尽力頂いていることに感謝しきれない気持ちで一杯です。

現在の学内の様子ですが、パンデミック初期とは異なってワクチン接種も進み、薬学部内の授業・実習形態も正常化しつつあります。コロナ禍では、収録システムを整備して講義動画をオンデマンド視聴で可能とするほか、e-Learning システムも刷新して学習の利便性を向上させるなどの工夫が各大学で行われてきました。本学では、2020年度はほとんどがオンデマンドでしたが、2021年度は、1つの学年を対面で授業と実習を行うグループ、オンデマンドを利用するグループに分け、教室内の密を避けながら、少しずつ以前の姿に戻そうとしてきました。しかし、オンデマンドの割合は依然として高く、大学のコミュニティになじめず、孤独を感じる学生も少なからずおりました。何か尋ねようとしても、気軽に話せる友人がいない一人きりの環境は勉学面でもマイナスの影響が出ており、学生一人ひとりに一層丁寧なサポートが必要となりました。このような反省と新型コロナウイルス感染状況を踏まえて、2022年度は対面による授業を基本とし、授業はオンデマンドでも配信して復習などに活かしてもらう形式を始めています。一方、この数年間、新型コロナウイルス感染拡大により、薬学部などの医療人を養成する学部では、患者さんを対象に行う実習の中止や縮小が余儀なくされてきました。ウィズコロナ時代に向けて、デジタルトランスフォーメーション（DX）の技術を活用し、オンライン教育やシミュレーション教育を更に活性化させ、新たな医療に対応できる人材を養成することが求められています。今後、本学でもデジタル医療教育用のDX機器やシミュレーターを活用した教育プランの開発や実施を行ってまいります。さらに、新型コロナウイルス感染が拡大し、ワクチン接種が実施された2021年度に、ワクチン調製と筋肉注射のシミュレーション実習を事前実習の中に導入しました。欧米では薬剤師業務の一つとなっているワクチン接種ですが、2022年度は装着式上腕筋肉注射シミュレーターの台数追加と皮内注射シミュレーターを導入することで学生にその手技を効率よく習得させ、将来の薬剤師の職能拡大を目指してまいります。簡単ではございますが、ウィズコロナ時代の学生教育の状況を紹介させていただきました。これからも、多くの薬学生が先生方の施設でお世話になりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●
新会長就任の挨拶
●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

会長就任にあたり

一般社団法人 埼玉県病院薬剤師会
会長 町田 充

令和4年(2022年)5月16日の通常総会で理事に信任され、第2回理事会で第14代会長に選出された町田充でございます。前任の北澤貴樹先生から引き継いで、身の引き締まる思いで任に当たって参ります。

埼玉県病院薬剤師会(以下、本会)は、昭和28年(1953年)に発足以来、69年を経過した伝統のある職能団体であります。この歴史ある職能団体を今後、大きく飛躍し成長させる所存であります。

そのための新体制として

近藤正巳副会長(埼玉医科大学総合医療センター)

濱浦睦雄副会長(蕨市立病院)

多田幸子副会長(獨協医科大学埼玉医療センター)

以下、17名の理事と2名の監事で尽力致します。

埼玉県病院薬剤師会 定款 目的 第3条

「本会は、病院、診療所、介護保険施設等に勤務する薬剤師の倫理及び学識技能を高め、安全・安心で質の高い薬物療法の確保を図るとともに、医薬品に関する正しい知識の普及を行うことにより、県民の健康及び福祉の増進に寄与することを目的とする」

と記載されています。

そこで、目的にそった本会委員会の運営(案)や企画(案)を下記に示します。

<総務委員会(案)>

- ・ **新規** 埼玉県薬剤師会との情報交流。例)例年開催の埼玉県薬剤師会学術大会へ協力。
- ・ **新規** IT担当部門の設置も検討

<広報委員会(案)>

- ・ **新規** 会誌編集班とホームページ更新班(新規レイアウト含む)の体制創り
- ・ **新規** 新たな発信ツール(LINE、Twitterなどの検討)の構築と発信
- ・ **新規** 県民のための病院薬剤師からの情報発信や公開講座の開催頻度を増加。

<薬事運営委員会(案)>

- ・ **新規** 災害と救急に関わる新たな「災害救急委員会(仮称)」設置への基盤づくり
- ・ **新規** 診療報酬改定に関わる各施設への関わり(調査・伝達)班の設置検討

<実習教育委員会(案)>

- ・ **新規** 実習の問題点と課題抽出、解決策など検討。統一化実習の構築
- ・ **新規** タスクマネージャー育成班と実習運営班の体制創り

- ・ **新規**）新たな「中小病院診療所委員会（仮称）」設置の基盤づくり
加えて、「地域連携委員会（仮称）」の発足も検討

＜生涯研修センターならびに所属の全委員会・部会・ブロック・専門担当含む（案）＞

- ・ **新規**）会員から評価が高く、再度参加したい研修内容を再企画（リメイク可）・運営。
- ・ **新規**）管理職研修会の企画（特別対策委員会）
- ・ **新規**）専門領域の研修会評価に「専門認定取得者の誕生」項目を追加、研修内容の再考。

【今後の計画（案）】

- **各種委員会の若返りと女性参画型委員会編成。**
（新たな発想や思考等の導入のため、新規委員、特に若手や女性の登用推進）
- **各委員会に必要な応じて埼玉県薬剤師会会員の同席を検討。**
（まずは同席を依頼。今後、委員会委員への委任を検討：総務委員会）
- **新たなに「医療安全」「感染対策」の新委員会の設置検討。**
（施設内の安全・感染のクリカルインデケーターの収集から開始。総務委員会調査）
- **新体制の方向性をホームページ記載と会誌への掲載。**
（広報委員会が新たな発信ツールの検討へ、そして運用：多田副会長担当）
- **会員の「満足度調査」の実施計画や若者からの意見徴収機会の検討。**
（薬事運営委員会で素案作成、実施）
- **県内優秀施設の表彰企画**
（学術大会の個人単位表彰以外に施設単位の表彰計画：評価委員会で選考企画担当）
- **埼玉県病院薬剤師会主催の就職説明会の企画**
（設置予定の「中小病院委員会（仮称）」担当。濱浦副会長担当）

就任して、日本病院薬剤師会の「令和4年度病院部門の現状調査」依頼があり、本会の各種研修会・勉強会の冒頭に動画にて調査依頼をお願いして参りました。その節はご協力して頂き、誠にありがとうございました。理事会として一丸となり、今回に限らず、継続的に本調査協力を求めていく所存であります。

最後に埼玉県病院薬剤師会は「新 公益法人制度」の実施に伴い、平成25年（2013年）4月に「社団法人」から「一般社団法人」に移行致しました。多くの方々のお力添えのもと、順調に、「一般社団法人」としての事業を進めております。

今後の発展は、会員のみなさまと共に、会員のための「埼玉県病院薬剤師会」の活動にご支援とご指導、ご協力をお願い致します。

会員皆様のご健勝とご活躍をお祈り、ご挨拶とさせていただきます。

埼玉県東部エリア3施設でのオンライン実習に関する取り組み紹介

草加市立病院 薬剤部

平野 航

埼玉県東部エリア3施設での オンライン実習に関する取り組み紹介

○平野航¹⁾ 渡邊正教²⁾ 齋藤洋子³⁾ 本石寛行¹⁾
木村直也¹⁾ 木村美由喜³⁾ 日比徹²⁾

1) 草加市立病院 薬剤部 2) 秀和総合病院 薬剤部 3) 越谷市立病院 薬剤科

オンライン実習を開催するにあたって

2020年の薬学実務実習からCOVID-19により非常事態下での実務実習を遂行していくことが余儀なくされた。各受入施設では実習生との十分な連携のもと、遠隔実習などに必要な資材や情報を積極的に導入することや実習時期を短縮するなどの工夫により、実務実習の質の担保を最低限、維持することに取り組んできた。

大部分の受入施設では、患者と接する実習内容(SBOs)に制限がかかるようになり、大幅なスケジュールの変更にも配慮してきた。本来であれば、実習生自身が臨床の現場で培う薬物療法の実践やコミュニケーション能力などが各自の到達目標まで達成できるように、指導薬剤師が評価・確認していくことが肝要である。しかし、現在の制限された実習環境下では、期待しているような成長が十分に達成できないことを指導薬剤師としては非常に苦慮していた。

そこで、近隣施設の病院実務実習において、各受入施設がコロナ禍での実務実習をどのように遂行しているか、またその進捗内容など、“地域における実習状況”について、密に連携共有してことが非常事態下では特に重要であると考えた。さらに、実務実習により実習生自身が成長する時期に応じて、他施設の実習生同士の情報交換する場を設けることで、到達目標の自己評価や自身の振り返りとしての時間として“有意義に試行していく”方法についても模索した。

今回は、埼玉県東部(草加・越谷・春日部)エリアを中心とした3施設の薬剤部門の所属長において、上記の内容について賛同一致を得たことにより、各施設の実務実習指導薬剤師が中心となり、WEBを利用した“オンライン実習”と名付け、今期(2021年度)試行したことで、多少の知見を得たので報告する。

秀和総合病院 薬剤部長 日比 徹
越谷市立病院 薬剤科長 木村美由喜
草加市立病院 薬剤部長 木村直也

目次

- オンライン実習概要
- オンライン実習に関する学生アンケート
- オンライン実習に関する担当者としての総括

目次

- オンライン実習概要
- オンライン実習に関する学生アンケート
- オンライン実習に関する担当者としての総括

オンライン実習の目的

コロナ禍で通常の病棟実習なども十分に実施できない状況のため、「実習内容を補う」「施設間交流」を目的でオンライン実習を計画した

- ▶ **各施設の情報共有**
(自施設以外の薬局の状況を知る)
- ▶ **実習業務の効率化**
(担当者を割り振り、他のメンバーは通常業務にあたる)
- ▶ **学生同士の交流**

2021年度 オンライン実習概要

	Ⅱ期（トライアル）	Ⅲ期	Ⅳ期
第1回	症例検討 （脳血管障害）	調剤室・注射室の紹介	調剤室・注射室の紹介
第2回	症例検討 （心房細動）	各施設での医療安全に 関する取り組み	専門認定に関するお話し （糖尿病療養指導士）
第3回	症例検討 （大腸がん）	病棟業務、外来、チーム医療等の 紹介	病棟業務、外来、チーム医療等の 紹介
第4回	実習で印象に残ったことの 報告	—	—

【開催時間】

Ⅱ期・Ⅲ期：15時－16時

Ⅳ期：14時－15時

【使用システム】

ZOOM Meetings

2021年度 オンライン実習参加者（実習施設・大学）

秀和総合病院

渡邊 正教 日比 徹

草加市立病院

平野 航 本石 寛行 木村 直也

越谷市立病院

齋藤 洋子 木村 美由喜

各大学の担当教員（任意）

（敬称略）

2021年度 オンライン実習参加者（学生）

【Ⅱ期】 合計6名

秀和総合病院：4名

草加市立病院：2名

【Ⅲ期】 合計9名

秀和総合病院：5名

草加市立病院：3名

越谷市立病院：1名

【Ⅳ期】 合計8名

秀和総合病院：3名

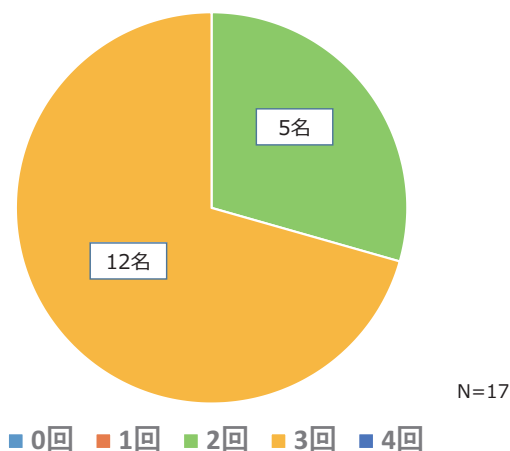
草加市立病院：3名

越谷市立病院：2名

目次

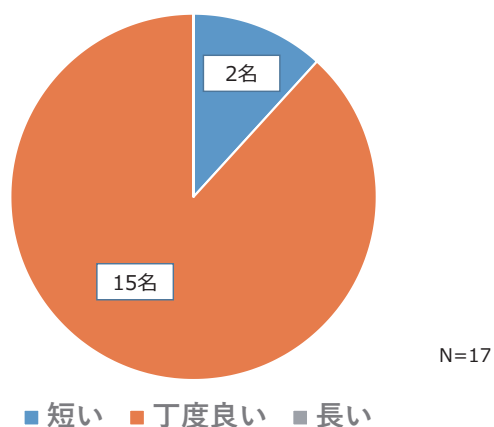
- オンライン実習概要
- オンライン実習に関する学生アンケート
※Ⅲ期（9名）+Ⅳ期（8名）の合計
- オンライン実習に関する担当者としての総括

オンライン実習の実施回数に関する希望



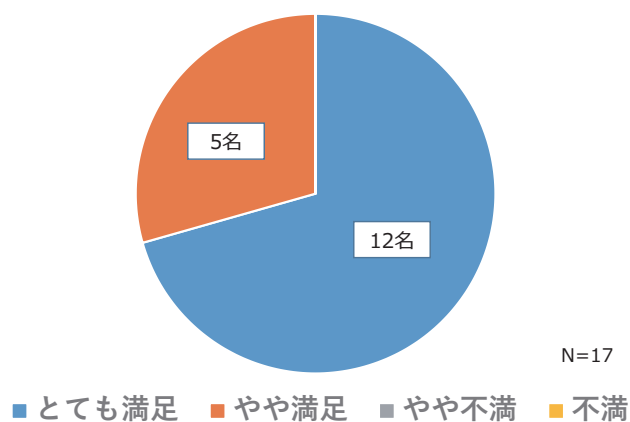
- ▶ 2-3回実施の希望者が多数であった
- ▶ 2回希望の学生は5名全員がIV期の学生であった
 - ➡ 年末年始もあり、スケジュールが過密になってしまったことが一因と考える

オンライン実習の実施時間（1時間）に関して



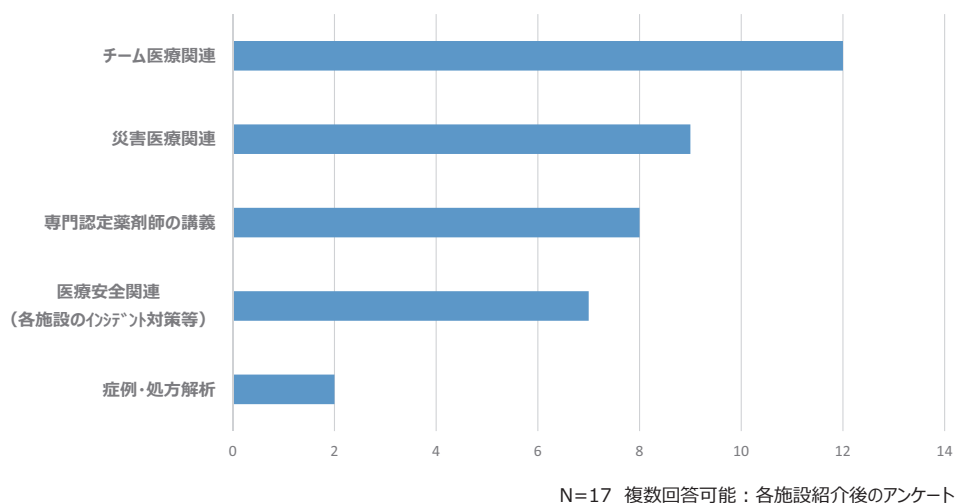
- ▶ 1時間で丁度良いとの意見が大半であった
- ▶ 短いと回答した学生からは、質問時間の延長希望が意見で挙がっていた

オンライン実習の満足度



▶ 概ね満足のいくものであったという意見であった

オンライン実習で取り上げて欲しいテーマ



- ▶ チーム医療、災害医療、専門認定薬剤師の講義、医療安全関連の希望が多かった
- ▶ トライアル時のみで実施した症例・処方解析のニーズは低めであった

2021年度 オンライン実習に関する意見など

▶ 良かった点

他の施設の状況を共有できた点

他施設の実習生と話すことはもちろん、自施設の実習生同士もこれを機会に話すことが増えたこと

チーム医療に関して、自施設にないものや自分が実習できなかったものに関して情報共有できたこと

就職活動の第一歩として役立ったこと

▶ 難しかった点、改善要望など

システムトラブルの問題（繋がらない、資料共有がうまくいかない等）

発言が難しい

質問の時間が短い

実習が忙しい時期と重なり、準備が大変であった

目次

- オンライン実習概要
- オンライン実習に関する学生アンケート
- オンライン実習に関する担当者としての総括

2021年度 オンライン実習に関する担当者としての総括

▶回数・時間

3回実施が理想ではあるが、資料作成（学生側）・日程調整等が大変

3施設で1時間が限界と考える（質問時間も不足してしまう恐れがある）

➔ 業務都合上、1時間以上の時間確保は難しい

担当者もシステムトラブルや学生が質問に困窮した際のために、同伴が必要

▶内容（Ⅲ・Ⅳ期に関して）

1回目：自院の調剤室の業務等を学ぶきっかけになった

学ぶ中で実習生-職員間のコミュニケーションも広がった

2回目：医療安全の取り組みを学ぶきっかけになった

専門分野で活躍していること、キャリアプラン等を学んでもらえた

病棟実習で服薬指導を行う上で、指導の質を高める参考となった

3回目：チーム医療（多職種連携）を考える良い機会となった

学生の実習成果報告（印象に残った部分）が簡便ではあるが実施できた

2021年度 オンライン実習に関する担当者としての総括

▶総括

オンライン実習の目的であった「**各施設の情報共有**」「**学生同士の交流**」は達成

3回実施が理想だが、日程調整や学生負担を考えると**2回/期**が望ましいか

実施時間は業務調整等も鑑みると、現状の**1時間**が限界である

エラー等への対応が多く、結果的に**実習担当者が付きっきりになる形**となった

施設紹介、医療安全関連、専門分野の講義、チーム医療関連は**学生ニーズと合致**していた

薬剤師採用における「奨学金制度」の紹介

一般社団法人 埼玉県病院薬剤師会 広報委員会 委員長

渋谷 清

病院薬剤師は、どの施設も人手不足ではないでしょうか。特に、中小病院は深刻な状況です。求人をしていても応募者が集らないとの声をよく耳にします。私が勤務する北里大学メディカルセンター（埼玉県北本市）でも例外ではありません。かつて、薬学生（大学院進学を除く）にとって就職先の第一候補は、病院でした。当時の薬学部卒業生の進路先を見ると一番多く占めていたのが病院であり、続いて調剤薬局、ドラッグストアでした。しかし、今は逆転しています。多くの6年制薬学部卒業生が、調剤薬局に就職する傾向が顕著に表れています。この背景には、在宅医療の進化、かかりつけ薬剤師制度の導入など、地域から求められる調剤薬局薬剤師への期待が込められているかもしれません。一方、病院薬剤師も負けてはいません。令和4年度の診療報酬改定では、今までの病院薬剤師の頑張りが評価されていると思います。

学生にとって、充実した6年制の薬学教育は魅力的なものかもしれませんが、特に、私立大学薬学部に通う学生、及び親にとって、学費の負担が大きくなっているのが現実です。そのため在学中に奨学金を借りる学生の割合が多くなっています。本当は病院薬剤師希望でも奨学金を早く返却したために、給料の高い、又は奨学金の返済をサポートしてくれる調剤薬局、ドラッグストアに就職する学生も多くいるはずです。

そこで、今回、このような状況に着目し、奨学金制度を導入した丸山記念総合病院の取り組みをご紹介します。

丸山記念総合病院では、従来から看護師を対象とした奨学金制度を導入されていたそうですが、病院執行部の支援もあって薬剤師の求人にも取り入れたことが始まりとの事です。

丸山記念総合病院「薬剤師奨学金制度」は、下記の通り支給対象者別に大きく3つに分かれています。

1. 薬学部の学生で卒業後（薬剤師資格取得後）、当院に勤務ができる者
2. 薬剤師国家試験不合格者のうち薬剤師免許取得に向けて予備校に入学された方を対象に、合格後、当院への就職及び一定期間の勤務ができる者
3. 薬剤師資格取得者で薬学部大学院を終了後、当院に勤務ができる者

それぞれの詳細について、頂いた資料をご紹介します。

丸山記念総合病院「奨学金制度」について

支給対象者

薬学部の学生で卒業後（薬剤師資格取得後）
当院に勤務する者に支給します。

奨学金の金額について

奨学金の金額は、毎月5万円または8万円の二つのコースから一つを選択することができます。ただし、場合により金額を変更することがあります。

奨学金の貸与期間について

奨学金の貸与期間について原則として最長6年です。

- 1年次貸与・・・6年間
- 2年次貸与・・・5年間
- 3年次貸与・・・4年間
- 4年次貸与・・・3年間
- 5年次貸与・・・2年間
- 6年次貸与・・・1年間

奨学金の返済について

●奨学金金額5万円コースを選択した奨学生は、卒業後（薬剤師資格取得後）奨学金貸与期間以上勤務（産前産後の休業・育児休業・介護休業等の期間を除く）した場合は、奨学金の返済を免除します。

●奨学金金額8万円コースを選択した奨学生は、卒業後（薬剤師資格取得後）奨学金貸与期間以上勤務（産前産後の休業・育児休業・介護休業等の期間を除く）した場合は、月額5万円の奨学金の返済を免除します。但し、差額3万円の奨学金については、（薬剤師資格取得後）貸与期間に応じて毎月の給与より返済することになります。

●卒業後（薬剤師資格取得後）奨学金貸与期間未満で退職する場合は、「奨学金貸与期間に未達成月数かける毎月の支給額」の金額を全部一括返済していただきます。

※その他のケースに関してなど詳細は、申請時にお渡します規程をご確認ください。

奨学金の支給方法について

奨学金は、原則として毎月病院から支給者本人名義の銀行口座（埼玉りそな銀行岩槻支店）に振り込みます。

丸山記念総合病院では、薬剤師を目指し薬学部へ進学される皆様、現在薬学部で勉強中の皆さまを応援するため「奨学金制度」を設けております。

まずは、お問い合わせください。



jimu-2@maruyama-hp.or.jp



048-757-3512

内線番号 2651

総務課 野村まで

奨学金の支給申請手続き

支給申請は、随時受付しております。

①薬剤師奨学金申込書を当院宛に提出してください。

②当病院から奨学金支給の承認の通知があります。

③奨学金貸与希望申請書、薬剤師奨学金借用証書、薬剤師奨学金奨学生誓約書を提出していただきます。奨学金支給希望者及び連帯保証人との連署が必要となります。

薬剤師を目指す皆様へ

丸山記念総合病院予備校生奨学金制度について

当院では、薬剤師国家試験不合格者のうち薬剤師免許取得に向けて予備校に入学される方に、合格後当院への就職及び一定期間の勤務を条件に奨学金制度を設けています。

1. 支給対象者について

薬剤師国家試験受験資格の得られる国内の薬学部6年生過程を卒業した薬剤師国家試験受験歴のある者で、かつ薬学部卒業後2年以内の28歳以下の薬剤師国家試験対策予備校に入学し、薬剤師資格取得後、当院に勤務する者。

2. 奨学金の金額について

奨学金の金額は、予備校入学金及び授業料の実費を、上限を120万円として一括して支給します。

3. 奨学金の返済について

- (1) 薬剤師資格取得後、当院にて2年間勤務した場合は返済を全額免除します。
- (2) 薬剤師免許を取得し当院にて勤務開始後2年未満で退職する場合は、貸与金額を勤務期間で除した支給額を一括返済していただきます。
- (3) 何らかの理由により薬剤師国家試験の受験をとりやめる場合、及び当院への就職を見送る場合は支給された奨学金の全額を一括返済して頂きます。

4. 奨学金の支給方法について

奨学金は、原則として入学する予備校の入学金及び授業料の納入を証明する書類の確認後、支給者本人名義の銀行口座（埼玉りそな銀行岩槻支店）に振り込みます。

5. 奨学金の支給申請手続き方法について

- (1) 随時支給申請を受け付けしています。
- (2) 奨学金支給希望者から「薬剤師奨学金（予備校生用）申込書」を当院宛に提出していただきます。
- (3) 当院が奨学金支給の承認後、奨学金支給希望者及び連帯保証人の連署により「奨学金貸与希望申請書」「薬剤師奨学金（予備校生用）借用証書」「薬剤師奨学金（予備校生用）奨学生誓約書」を提出して頂きます。

丸山記念総合病院奨学金制度について

当院では、薬剤師資格を取得後、薬学部大学院へ進学される皆様を応援するため奨学金制度を設けています。

1. 支給対象者について

薬学師資格取得者で薬学部大学院を修了後、当病院に勤務する者に支給します。

2. 奨学金の金額について

奨学金の金額は、毎月 50,000 円又は 80,000 円の二つのコースから一つを選択することができます。但し、場合により金額を変更することがあります。

3. 奨学金の貸与期間について

原則として最長 4 年です。

(1 年次貸与…4 年間 2 年次貸与…3 年間 3 年次貸与…2 年間 4 年次貸与…1 年間)

4. 奨学金の返済について

- (1) 奨学金月額 50,000 円コースを選択した奨学生は、大学院修了後、奨学金貸与期間以上勤務（産前産後の休業・育児休業・介護休業等の期間を除く）した場合は、**奨学金の返済を免除**します。
- (2) 奨学金月額 80,000 円コースを選択した奨学生は、大学院修了後、奨学金貸与期間以上勤務（産前産後の休業・育児休業・介護休業等の期間を除く）した場合は、**月額 50,000 円の奨学金の返済を免除**します。但し、差額 30,000 円の奨学金については、大学院修了後、貸与期間に応じて毎月の給与より返済することになります。
- (3) （大学院修了の後、当院勤務開始後）奨学金貸与期間未満で退職する場合は、奨学金貸与期間に未達成×毎月の支給額を全部一括返済して頂きます。
- (4) 在学中（修了前）に退学または契約を破棄したい場合は、その時点まで支給された奨学金の全額を一括返済して頂きます。

5. 奨学金の支給方法について

奨学金は、原則として毎月病院から支給者本人名義の銀行口座（埼玉りそな銀行岩槻支店）に振り込みます。

6. 奨学金の支給申請手続き方法について

- (1) 随時支給申請を受け付けしています。
- (2) 奨学金支給希望者から「薬剤師（大学院）奨学金申込書」を当院宛に提出して頂きます。
- (3) 当病院が奨学金支給の承認後、奨学金支給希望者及び連帯保証人の連署により「薬剤師（大学院）奨学金貸与希望申請書」「薬剤師（大学院）奨学金借用証書」「薬剤師（大学院）奨学金奨学生誓約書」を提出していただきます。

<学会報告>

～日本薬学会第142回年会～ 日本薬学会 第142年会 報告

国立病院機構 埼玉病院 薬剤部
望月 悠莉

2022年3月25日から28日に日本薬学会第142回年会在行われ、私はポスター発表を行いました。今回の日本薬学会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で完全オンライン開催となりました。その中でポスター発表は、自分のアバターを用いたバーチャル空間「oVice」上で行われました。開催期間中、ポスターはホームページ上で公開され、当日は「oVice」上の演者ブースで発表や質疑応答を行いました。(Fig.1) バーチャル空間上であるにも関わらず、開始のアナウンス等は現地で行われているような臨場感がありました。



Fig.1 発表の様子

以下に、発表の概要等について報告します。

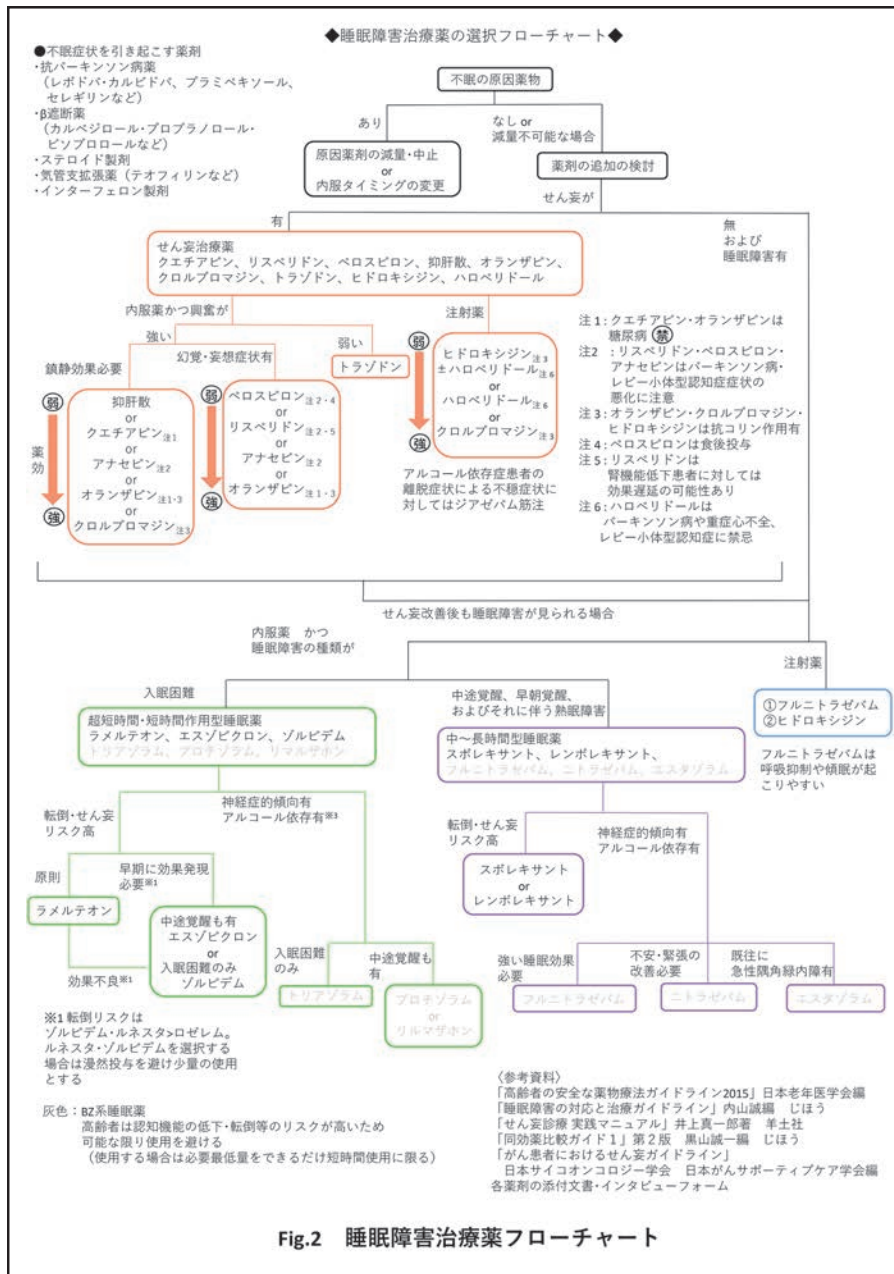
1. 学会発表の概要

【演題名】

認知症ケアチームにおける睡眠障害改善に向けた薬剤師の取り組み

【背景・目的】

当院では2021年度より認知症ケアチームを発足し、認知症ケア加算Iの取得を開始しました。認知症ケアチームは活動内容の一環として、認知症患者の睡眠障害について評価を行っています。睡眠障害には睡眠衛生指導やリスク評価を行い、薬物療法へ移行することが一般的です。当院では薬物療法の際の治療薬の選択方法を定めていなかったため、睡眠障害に対する治療薬の選択について支援が必要でした。今回、睡眠障害に対する治療薬選択のフローチャート (Fig.2) を作成し、睡眠障害改善に向けた活動を開始したため、その内容について報告します。



【取り組み】

睡眠障害に対する治療薬選択のフローチャートを、睡眠障害がみられる認知症ケアチーム対象患者に対して使用しました。

まず、睡眠障害を引き起こす薬剤の使用の有無を確認し、使用していた場合は中止や減量の検討を行います。中止や減量が不可能な場合や睡眠障害を引き起こす薬剤を使用していない場合は睡眠障害治療薬を追加します。

- (1) 「せん妄症状が顕著にみられる場合」は、リスペリドンやクエチアピンなどの追加を推奨します。
- (2) 睡眠障害を a. 「入眠困難」、b. 「中途覚醒、早朝覚醒および、それに伴う熟眠障害」と分類しました。(2)-a. 「入眠困難」に対しては、ラメルテオンやエスゾピクロン、およびゾルピデムを推奨しました。(2)-b. 「中途覚醒、早朝覚醒および、それに伴う熟眠障害」に対しては、スポレキサントを推奨しました。ベンゾジアゼピン受容体作動薬の使用は、せん妄や認知機能の低下等を引き起こすことから、推奨されていませんが、神経症的傾向やアルコール依存の患者に対しては使用可能としました。

【結果】

2021年8月16日から10月31日の入院患者かつ認知症ケアチームの対象患者457件のうち、睡眠薬の使用は153件でした。薬剤師が処方提案を行った症例は12件でした。その中で(1)の「せん妄症状が顕著にみられる場合について」は7件の提案でした。(2)-a.「入眠困難」については5件の提案、(2)-b.「中途覚醒、早朝覚醒および、それに伴う熟眠障害」は0件でした。

2. 当院でのフローチャートの使用状況

作成したフローチャートは認知症ケアチーム内だけでなく病院全体でも活用されるようになり、睡眠障害の改善に大きく貢献しています。不眠時やせん妄発現時の薬剤を、フローチャートに基づいて指示する医師も少なくありません。実際、病棟や認知症ケアチームの活動において、フローチャートを用いることで睡眠障害が改善した症例もみられてきています。今後もフローチャートの活用を推進し、患者の睡眠障害改善を目指していきたいと思います。



～日本病院薬剤師会関東ブロック第52回学術大会～
Web開催による新任薬剤師研修会－座談会の取り組み

一般社団法人 埼玉県病院薬剤師会 生涯研修センター総合研修部会
北畑 智英

Web開催による新任薬剤師研修会 一座談会の取り組み－

一般社団法人 埼玉県病院薬剤師会 生涯研修センター総合研修部会

○ 北畑 智英，金子 智一，平野 航，前田 力丸，多田 幸子，大塚 潔，岸野 亨，曾我部 直美，町田 充，北澤 貴樹

日本病院薬剤師会
関東ブロック第52回学術大会

COI 開示

筆頭演者：北畑 智英

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある
企業などはありません。

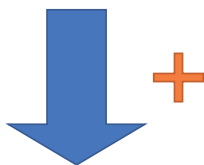
はじめに

- 一般社団法人埼玉県病院薬剤師会生涯研修センター総合研修部会では、毎年度「新任薬剤師研修会」(以下、本研修会)を開催している。
- 本研修会は、座学研修に加えてスモールグループディスカッション(以下、SGD)を通して、新任薬剤師同士が悩みや解決策を共有する事にも重点をおいている。
- 2020年度は、コロナ禍のためSGDを除いたWeb開催を余儀なくされた。
- 2021年度は、同様にWeb開催としたが、既存の座学研修2演題に加えて、新たな取り組みとして「**座談会**」を行った。

座談会の開催に至った経緯

内部環境（開催者側）因子

- SGDを補完するコンテンツの提供意思（新任薬剤師同士に悩みや解決策を共有してもらいたい）。
- 現場の若手かつ認定等を保持する薬剤師からのアドバイスの提供意思。
- Web形式研修会の力量…ホストとしての会議機能は使用経験がない。



外部環境因子

- コロナ禍のため、集合研修の開催が難しい。

座談会の開催を決定。

POINT：過去の参加者の意見、開催者側の意思や力量を踏まえてコンテンツを策定。

座談会の取り組み概要①

- コメンテーター選定 **非管理職**かつ**感染**や**癌**領域の認定等資格を保持した薬剤師3名。
- メインテーマと構成・実施時間の策定
 - ・ メインテーマ 「新任薬剤師の今とこれからについて」
 - ・ 構成 ①Web研修システムの使い方
②コメンテーター3名からの**ミニレクチャー**
③事前の質問・意見に対するフィードバック
 - ・ 実施時間 1時間
- 座談会コメンテーターでの打ち合わせ 研修会前の約1時間実施
- 研修会終了後、本研修会に対する参加者アンケートの実施・集計

座談会の取り組み概要②

- 事前の質問・意見をフリー記載にて募集 (本研修会の効率的な運営・ニーズ把握のため)

Q: 「悩み事や先輩薬剤師に聞いてみたいこと」

A:

- ・ 問い合わせ対応のコツ
- ・ 苦手な人や悪口を言われた場合の対応
- ・ 処方提案のコツ
- ・ 同種同効薬の整理方法
- ・ 継続して勉強する方法
- ・ 新人の時にやっておくべきこと
- ・ 新人の時に悩んだこと
- ・ どの認定資格をとったら良いか
- ・ 病棟で業務するための準備 (記載から抜粋)

Q: 「勤務先での調剤ミスを防ぐ取り組み」

A:

- ・ バーコードリーダーの活用
- ・ インシデント報告による情報共有
- ・ リスク回避への定期的なミーティング
- ・ 複数規格ある場合、処方箋印字にて規格を【 】等で強調
or 調剤時に自分でマーカする
- ・ 処方箋への検査値の記載
- ・ 処方箋への棚番の記載
- ・ 慌てない
- ・ 剤形違いを薬袋にて色分け (記載から抜粋)

2022年1月15日（土曜日） 一般社団法人埼玉県病院薬剤師会 生涯研修センター 第31回新任薬剤師研修会(オンライン研修会) の概要

《開催日時》 2022年1月15日（土） 14：00～17：00（ログイン13：30～14：30）

教育講演 座長 総合研修部会 金子 智一

【1】 病院薬剤師の生涯研修について 14：00～15：00
埼玉県病院薬剤師会 生涯研修センター センター長 大塚 潔 先生

【2】 若手薬剤師に向けた医療安全の話 15：00～16：00
白岡中央総合病院 情報管理部 医療安全管理課 課長 渡邊 幸子 先生

座談会

【3】 新任薬剤師の今とこれからについて 16：00～17：00
コメンテーター 総合研修部会 北畑 智英(進行)
平野 航
前田 力丸

研修会使用スライドから抜粋

座談会の概要

① ZOOMの復習

② ミニレクチャー (コメンテーター)

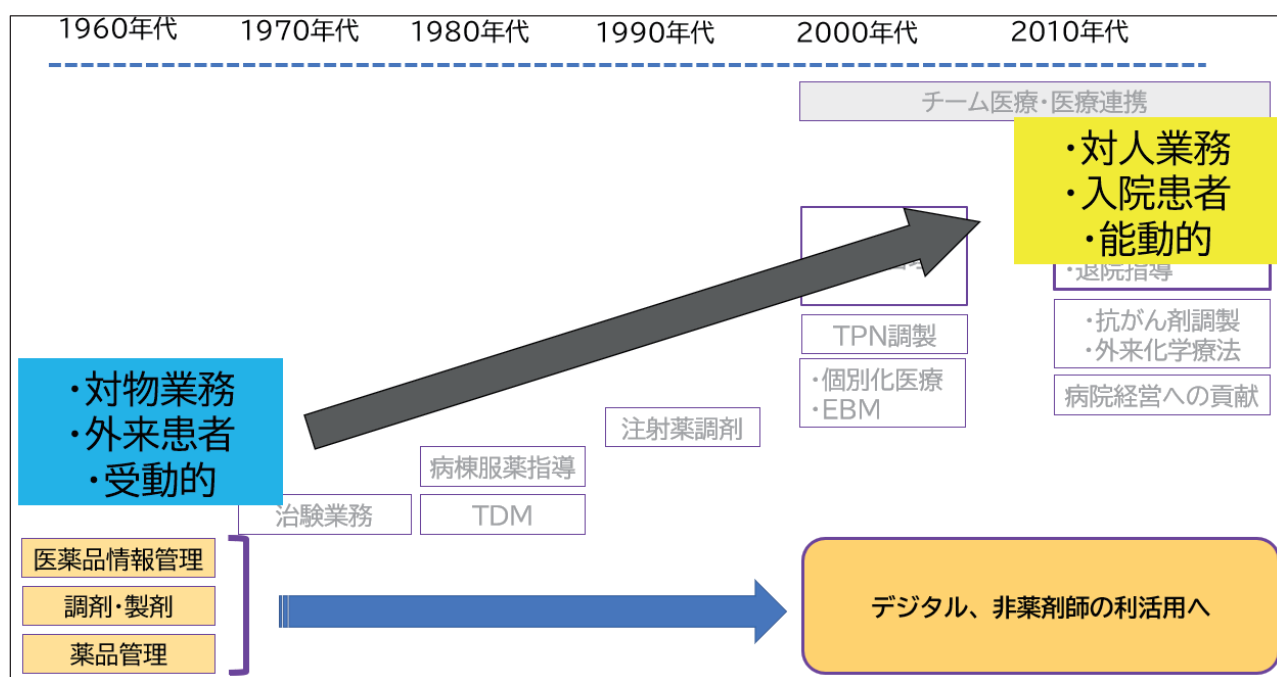
- ◆ 業務の変遷から見る病院薬剤師 (北畑)
- ◆ がん薬物療法と薬剤師 (平野)
- ◆ 感染制御と薬剤師 (前田)

③ 皆さんからのご質問にお答えします。

①ZOOM の復習

- 手の挙げ方
- チャット
 - 参加者 ⇔ ホスト・共同ホスト間での使用について
- 参加者氏名の変更・・必ず参加登録した名前にする

②ミニレクチャー 業務の変遷から見る病院薬剤師



②ミニレクチャー がん薬物療法と薬剤師

新人薬剤師さんへ

- ▶ 「がん」は難しそうだし、取っ掛かりにくい・・・
- ➔ まずは**患者さんレベルの情報**を学んでみましょう

メーカー作成の患者用指導パンフレット



レジメンのスケジュール、主な副作用など
メーカーに依頼すれば無料でもらえる

がん情報サービス（国立がん研究センター運営）

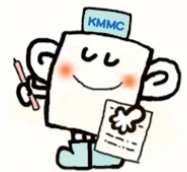


各種がんの基本知識、検査、治療方針などが
一般市民向けに作成されている

Soka Municipal Hospital 6

②ミニレクチャー 感染制御と薬剤師

感染症って…



なぜ私が感染症の勉強を始めたか。。。

どの病棟へ行っても

どの診療科でも

感染症を診ることになり抗菌薬の選択や投与量、投与間隔などについて問われることになるんです。

感染症について勉強することはどの診療科の病棟薬剤師になっても生きてくる分野だ！と思って始めました。

③ 皆さんからのご質問にお答えします

• 「悩み事や先輩薬剤師に聞いてみたいこと」へ各薬剤師から回答（実際の回答から抜粋）

問い合わせ対応・・・・・・・・・・

	<ul style="list-style-type: none"> • 相手が何を求めているのか？理解・確認して対応する。 • 解らない時は、曖昧な答えはしない。先輩に相談する。
--	--

苦手な人の対応・・・・・・・・・・

	<ul style="list-style-type: none"> • その人の良いところを探したり、肯定的に接してみる。 • 自分のいけないところを、相手に確認するなどして改善する。
--	---

継続して勉強する方法・・・・・・・・

	<ul style="list-style-type: none"> • 日々の業務での疑問などはその日のうちに解決しておく。 • 通勤時間を利用して、医療ニュース（m3、日経メディカル等）を見る。
--	---

病棟で業務するための準備・・・・・・・・

	<ul style="list-style-type: none"> • 返品や麻薬対応などの院内ルールを確認しておく。
--	---

新人の時にやっておくべきこと・・・

	<ul style="list-style-type: none"> • 他部署の人とコミュニケーションをとる。 • 好きな分野だけに固執せず、色々な分野を勉強する。
--	---

• 「勤務先での調剤ミスを防ぐ取り組み」：時間不足のため、紹介のみ

参加者アンケート集計結果①

総合評点
3.6
(4件尺度)

申込者数	参加者実数	アンケート提出数	アンケート回収率	アンケート意見あり(枚)
31	31	31	100%	7

県別区分	埼玉 31	職種区分	薬剤師 31
------	----------	------	-----------

1. 性別と年代

男	女	無回答
6	22	3

20代	30代	40代	50代	60歳以上	無回答
26	1	0	0	0	4

2. 本研修会の開催をどこで知ったか

施設へのメール案内	HP	個人へのメール配信	その他
14	2	2	13

3. メール配信サービスを利用しているか

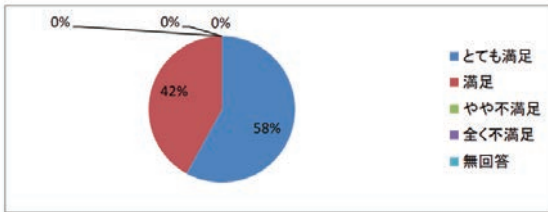
利用している	メール配信を知っているが利用していない	メール配信サービス自体知らない
8	13	10

評価記入---4. とても適切 3. 適切 2. やや不適切 1. 全く不適切

参加者アンケート集計結果②

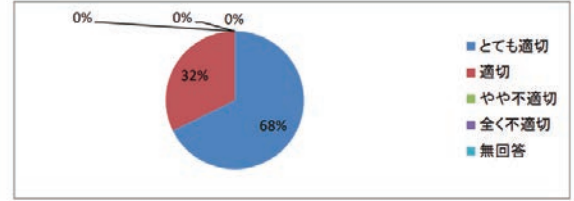
6. 本研修会の印象について

とても満足	満足	やや不満足	全く不満足	無回答	平均
18	13	0	0	0	3.6



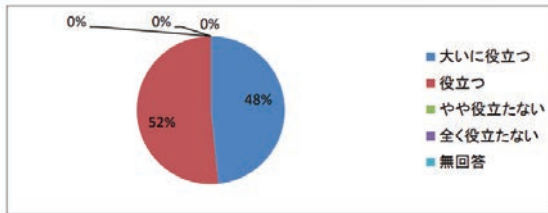
4. 講演テーマについて

とても適切	適切	やや不適切	全く不適切	無回答	平均
21	10	0	0	0	3.7



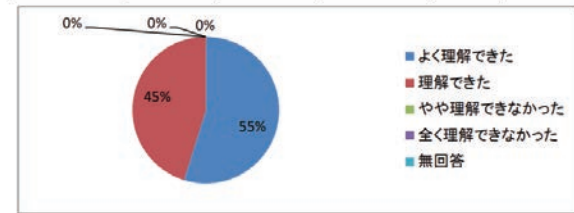
7. 本研修会で学び今後の業務に役立つか

大いに役立つ	役立つ	やや役立つ	全く役立つ	無回答	平均
15	16	0	0	0	3.5



5. 講演内容について

よく理解できた	理解できた	やや理解できなかった	全く理解できなかった	無回答	平均
17	14	0	0	0	3.5



参加者アンケート集計結果③

8. 今後取り上げてほしいテーマや担当の研修部会への意見

糖尿病領域	1
COVID-19関連で薬剤師として知っておくべきこと	1
医師、看護師目線から薬剤師にしてほしい業務	1
病棟業務	1
若手薬剤師向けの病棟業務のこなし方や向き合い方などの研修	1
実際に新任が働いていて、悩んだり困ったりした場面の事例を取り上げて、どのように対処していくのがよいのかを教えてくださいのような研修があるとありがたい	1
病棟業務にあたり加算を算定するための具体的な業務内容を盛り込むと新人のうちから次の業務内容、求められる能力などを考えやすいと思う	1
研修会講義の後に、今回のような座談会を定期的に行って同世代の薬剤師の状況を配信したり、他施設含む先輩からのアドバイスを聞く機会があるといいなと思った	1
他の病院の新任薬剤師の方も病棟業務に関わっていくにあたって、不安を感じていることが分かって安心した。もう少し早い段階で一年目の人の様子が分かる機会があると嬉しかった	1
薬剤師の先輩の話が聞けて良かった	1
休憩時間が欲しかった	1

考察

- 本研修会の参加者は、大学でのWeb形式授業を経験している為か参加スキルに問題はなかった。
- 参加者への事前調査は、研修会の効率的運用およびニーズの把握に有用であった。
- 参加者アンケート集計結果③より、同世代間での情報共有、他施設の先輩薬剤師のアドバイスを得る交流機会へのニーズを感じた。
- 今回の座談会は、開催者側から参加者側への一方通行の情報発信であったが、今後はWebシステムの会議機能を活用した参加型研修も開催すべく、開催者側の力量の向上および創意工夫が必要である。



<私の母校>

私の母校～慶應義塾大学～

IMS グループ 春日部中央総合病院 薬剤部
城山 今日子

【大学の沿革】

慶應義塾のはじまりは、1858年、福澤諭吉先生による蘭学塾の開塾を起源としています。1868年に家塾から脱して近代私学として発足した際に、慶應義塾として命名されました。

慶應義塾大学薬学部・大学院・薬学研究科は、単科の薬科大学として長年にわたり教育・研究を続けてきた共立薬科大学との合併によって、2008年に誕生しました。

【キャンパス】

慶應義塾は、東京都・神奈川県に6つのキャンパスを擁しています。歴史を感じさせる三田キャンパスをはじめ、それぞれ独自の雰囲気を持つ特徴あるキャンパスです。自分が通うキャンパスだけでなく、他キャンパスの授業の履修や課外活動などで、キャンパス間を自由に往来する塾生がたくさんいます。このほか、地域社会と連携して最先端の研究や発信を行うためのタウンキャンパスなどを全国に展開しています。

薬学部・大学院・薬学研究科は芝共立キャンパスにあり、浜松町駅・大門駅・御成門駅からアクセスが可能な、都心の中心部に位置しています。また、浦和共立キャンパスには数百種類の薬草を栽培している「薬用植物園」があります。芝共立キャンパス内には、2001年、大学附属の保険調剤薬局が開局され、薬学部キャンパス内にある薬学部附属薬局は日本初とされました。

【6年間の学生生活】

薬学部生は、1年次は日吉キャンパスに通い、一般教養を身に付け、2年次からは芝共立キャンパスに通い、多くの専門知識を学びます。多くの学部生が行き交う日吉キャンパスとは異なり、薬学部生しか通っていない芝共立キャンパスは、良い意味で閉鎖的で、高校のクラスのような団結した雰囲気がありました。私も、周囲の友人も、慶應生の名に恥じぬよう、自覚と責任を持って、勉学や日頃の生活に臨んでいたように思います。

部活動やサークル活動は、大学全体で盛んにおこなわれています。他学部生と合同の活動もあれば、薬学部生だけ構成されている活動もあります。私は1年次から、引退する3年次の末まで、他大学とのインカレテニスサークルに所属していました。合宿・イベントも多く、テニスやバーベキュー、花火、スキー、温泉など大学生活の楽しい思い出は、いつもサークル仲間と共にあります。

2年次からは大学の周辺でアルバイトもはじめました。勉学・試験などとの両立は大変でしたが、自分で収入を得ることの大変さを感じ、また充実感を得ることができました。

4年次の末からは研究室に配属されます。薬局・病院実習をはじめ、卒業論文や卒業試験、国家試験の勉強に追われながらも、6年次の10月末まで研究に取り組むカリキュラムは、本学独自の特徴であると強く思います。私は6年次の夏に、学会で研究成果を発表し、優秀演題賞をいただくことができました。熱意をもって指導いただいた教授方には本当に感謝しています。

希望する学部生は、本学大学病院での実務実習を選択することができます。私も5年次に、大学病院での実習を経験しました。私の在学中は、実習1クールごとに学部生20名前後を受け入れていました。大学病院ならではの最新の治療・治験、他職種との関わり、患者さんへの指導実践など、実習を通して、今の職場でもある病院薬剤師についてより深く考えるきっかけになったと感じています。

【最後に】

大学で過ごした期間よりも、社会人として働いている期間が長くなり、思い描いていた薬剤師に少しずつ近づけるよう、今も勉強の毎日です。大学で出会った友人とは、今も連絡を取っており、互いの近況など多くの情報共有もしています。病院や薬局、企業など、様々な現場で活躍している友人の話聞くことは、とてもいい刺激になり、自分も今以上に頑張ろうと思えることが出来ます。大学での経験、知己は私にとってかけがえのない心の支えであり、これからも大切にしていこうと改めて考えることが出来ました。このような寄稿の機会をいただいたことに感謝いたします。

参考・引用 (2022.06.15 access)

慶應義塾大学 公式HP <https://www.keio.ac.jp/ja/>



正面玄関前 写真右手には港区役所があります



屋上庭園には季節の花や、薬草・漢方薬も植えられています

<医療の質・安全部会から>

適応外使用に対する安全な使用に向けた薬剤師の関わり

上尾中央総合病院 薬剤部

新井 亘

2016年6月に改正された医療法施行規則において、特定機能病院の医薬品安全管理責任者に対し、未承認医薬品の使用・適応外使用・禁忌への使用に関して、医薬品の使用状況の把握、必要性の検討を目的とした体系的な仕組みを構築し、必要な指導と検討した結果の共有が義務づけられました。特定機能病院に限らず薬剤師は、医薬品の適正使用を推進するためにこれらの状況を把握し、体制の構築にも積極的に関わるべきです。

上尾中央総合病院（以下、当院）では、その機能を薬剤適正使用委員会が担っています。主な議事内容は、添付文書の効能・効果、用法・用量を逸脱する使用（以下、適応外使用）、必要性和危険性を総合的に判断しながら禁忌に該当する使用（以下、禁忌使用）の審査です。また、添付文書の警告に該当する事項を逸脱する使用（以下、警告逸脱使用）等の臨床上での問題点について、適正化に向けた検討を行っています。

当院において医師が適応外使用や禁忌使用を申請する場合は、適応外使用等医薬品申請書を記載し、参考文献等と共に医薬品情報室へ提出します。医薬品情報室に所属する薬剤師は、審査のために必要な医薬品情報を収集し薬剤適正使用委員会へ提示します。薬剤適正使用委員会は集合型で毎月1回行われ、委員は医師・薬剤師・看護師・臨床検査技師・事務職で構成され審査を行います。必要に応じて、臨床倫理審査委員会・患者安全対策委員会・抗癌剤専門部会等への諮問や、委員以外の出席を求め意見を聞きます。審査結果は、エビデンスレベルに応じて、当院として承認・今回の症例のみ承認・継続審議・却下に分類します。（図）

当院として承認に対しては、適応外使用等に対する使用条件を薬剤適正使用委員会にて規定し、それに該当する今後の症例についても包括として承認する場合があります。なお、使用後の経過や、使用状況について薬剤適正使用委員会への報告の必要性も判断します。緊急の申請に対しては、メールによる迅速審査または臨時に開催します。

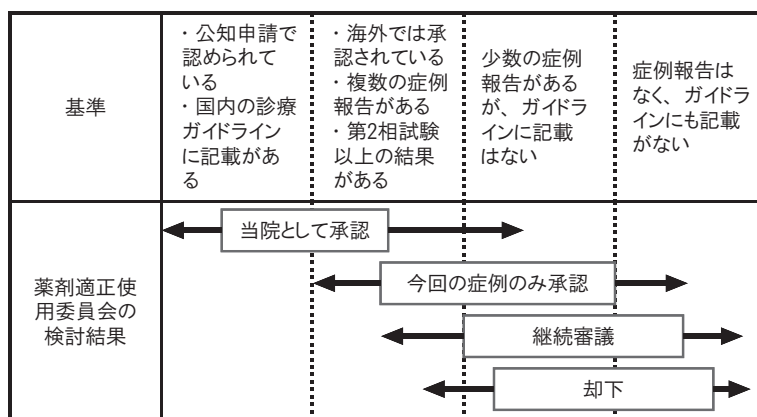


図 薬剤適正使用委員会の検討結果

適応外使用や禁忌使用は、一切許されないものではなく、その使用にあたっては、必要性和危険性を総合的に判断しながら安全な使用が要求され¹⁾、これらに関わる処方疑義がある場合は、個々の薬剤師が医師に行っています。それに加えて、薬剤適正使用委員会による承認や、使用後の状況把握を行うための体制は医薬品の安全使用を目的として組織的に機能するべきであり、その中枢は医薬品情報室が担っています。

一方、添付文書では認められない医療行為については、医学的必要性の確認、患者への適切な説明と患者による選択、モニタリング体制の強化、診療録への記載が求められます²⁾。禁忌に設定されているものは絶対的禁忌と相対的禁忌に分けて考えられ、絶対的禁忌とはその医療行為によって患者の死、もしくは不可逆的な障害を招くものであり、相対的禁忌とはそれほどの危険性はないものの、医療上通常行ってはならないと言われます³⁾。このような、個々の患者の状態に応じて判断が必要な事例の場合は、詳細な患者状態を把握している病棟薬剤師の存在も欠かせません。更に、実際に適応外使用や禁忌使用を実施する際は、病棟薬剤師から多職種に対して、投与後の観察等のリスクの共有が重要であり、安全な適応外使用等に対する観点においても、病棟薬剤師の更なる活躍が期待されます。

引用文献：

- 1) 赤羽根秀宜：禁忌あるいは適応外の医薬品を使用する際に留意すべき法律、医薬ジャーナル、53、2475-2477（2017）。
- 2) 寺田智祐、上西幸治：医療法施行規則改正と禁忌 現場にもたらすインパクト、薬事、59、1605-1610（2017）。
- 3) 室高広：医療用医薬品の添付文書と禁忌、薬事、59、1611-1614（2017）。



北里大学メディカルセンター薬剤部の業務紹介

北里大学メディカルセンター
薬剤部 渋谷 清



病院概要

許可病床数 372床（一般）

標榜診療科 内科、脳神経内科、呼吸器内科（※）、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、
内分泌・代謝内科、リウマチ・膠原病内科、精神科（※）、小児科、外科、消化器外科、
呼吸器外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、
眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科（※）、放射線科、麻酔科（※）、救急科、病理診断科
全 27科

※…外来診療を実施していません。

薬剤部の紹介

安全・安心な医療が求められる昨今、医療の高度化、疾病の多様化により、薬物療法は複雑化しています。そのような状況の中、薬剤師には、薬の専門家として医療チームの中で重要な役割を担い、その活躍が期待されています。

当院薬剤部では、『個々の患者さんに適した良質かつ安全・安心な薬物治療の提供』を目指し、日々業務にあたっています。処方箋に基づく調剤のみならず、すべての病棟に薬剤師を配置（常駐）し、医師や看護師とともに



に患者さんの薬物治療に責任を持ち、積極的に関わっています。また、糖尿病療養支援チーム、栄養管理チーム（NST）、感染制御チーム（ICT）、緩和ケアチーム（PCT）、褥瘡対策チーム、災害派遣医療チーム（DMAT）などにも参画し、チーム医療の一躍を担っています。

教育面においては、教育病院として次世代を担う薬剤師を育成すべく、薬学部教員（臨床薬学研究・教育センター 薬物治療学 4）が常駐し、病院薬剤師業務を兼務しながら薬剤部職員との協働による教育体制を確保しております。薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂で提示された「将来のあるべき姿としての薬剤師に求められる 10 項目の基本的な資質」をしっかりと身に付けられるよう取り組んでいきます。

さらに、医療現場では様々な治療に関わる問題が山積しています。その問題点を抽出し、その問題解決を中心とした研究も積極的に行い、医療に貢献したいと考えています。

「診療・教育・研究」の 3 つの柱を基本にして、今薬剤師が果たすべきことをしっかりと見極め、チーム医療に貢献できる薬剤部、薬剤師を目指し、日々努力しております。

薬剤部の各種認定取得状況

2020 年 4 月 1 日現在

認定資格など（正式名称）	認定団体名称（正式名称）	人数
日本医療薬学会指導薬剤師	日本医療薬学会	1
日本医療薬学会専門薬剤師	日本医療薬学会	2
病院薬学認定薬剤師	日本病院薬剤師会	1
妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師	日本病院薬剤師会	1
感染制御認定薬剤師	日本病院薬剤師会	1
生涯研修履修認定	日本病院薬剤師会	2
研修認定薬剤師	日本薬剤師研修センター	7
認定実務実習指導薬剤師	日本薬剤師研修センター	8
小児薬物療法認定薬剤師	日本薬剤師研修センター	1
抗菌化学療法認定薬剤師	日本化学療法学会	4
緩和薬物療法認定薬剤師	日本緩和医療薬学会	1
日本糖尿病療養指導士	日本糖尿病療養指導士認定機構	5
栄養サポートチーム専門療法士	日本静脈経腸栄養学会	3
医療情報技師	日本医療情報学会	2
簡易懸濁法認定薬剤師	日本服薬支援研究会	1
小児アレルギーエデュケーター	日本小児臨床アレルギー学会	1
スポーツファーマシスト	日本アンチドーピング機構	5
サプリメントアドバイザー	日本サプリメントアドバイザー認定機構	1
ACLS プロバイダー	日本 ACLS 協会	1
ICLS	日本救急医学会	1
日本臨床薬理学会認定 CRC	日本臨床薬理学会	1

調剤業務

1. 処方監査

当院ではオーダーリングシステムを取り入れており、医師が電子カルテに処方入力すると調剤室に処方箋が出力されます。調剤する前に処方内容が適切かなど、次のような項目を確認し、何か疑問があった場合には、医師に確認をしてから調剤を始めます。

- 薬の量や飲み方が合っているか？
- 他の薬との飲み合わせに問題はないか？
- 他の診療科から出ている薬と重複していないか？
- 服用を避けた方がよい薬が処方されていないか？

2. 調剤

処方箋にもとづいて調剤します。

薬を正しく取り揃えるために、次のような調剤過誤防止対策を行っています。

- 処方箋への薬品棚番号表示
- 複数規格ある薬、外観や名称が類似している薬への注意喚起や在庫場所の工夫
- 取り揃え間違いの多い薬に対する注意喚起
- 粉薬や水薬など秤量する全ての薬のバーコード管理（調剤監査システムの導入）



3. 薬剤監査

調剤者とは別の薬剤師が再度、量や飲み方、他の薬との飲み合わせなど最終確認を行います。

注射薬調剤業務

注射薬は飲み薬と同様に、患者さん一人ひとりの状態に合わせて医師が処方を行います。当院では入院中の患者さんに使用される注射薬について、薬剤師が注射処方箋に基づき1回毎に投与される注射薬をトレーに準備して、薬剤の取り間違えがないようにしています。

調剤する際には、投与量、投与経路（静脈注射、皮下注射、筋肉注射等）、投与速度等の確認と共に、2種類以上の注射薬を混ぜても問題ないかなど、薬学的・化学的な見地から処方内容を細部までチェックしています。手術等で食事を摂ることが出来ない患者さんには高カロリー輸液が使用されます。高カロリー輸液の調製は無菌的な環境下で行う必要があるため、クリーンルームの中で無菌調製を行っています。

作業は必ず2名以上の薬剤師が確認し、適切な注射薬が適切な量・使用方法で患者さんに投与されるようにしています。この調剤業務によって、患者さんがより安全に、安心して注射薬による治療を受けられるように努めています。



抗がん剤調製業務

抗がん剤治療に対し、患者さん一人一人の背景や検査値などから、安全で効果的な治療が行えるようサポートしています。治療は各種ガイドライン・マニュアルをもとに作成されたレジメン（抗がん剤の治療計画）に準じ、治療の逸脱がないか確認しています。入院・外来で投与される注射抗がん剤は、薬剤部で無菌的に調製しています。

<処方確認>

処方されたオーダーに対し、治療薬の選択・投与量・休薬期間などの妥当性を確認し、疑義が生じた場合は医師へ問い合わせています。

<無菌調製>

抗がん剤調製者はガウン、マスク、手袋、ゴーグル等を着用し、抗がん剤を外部へ飛散させない装置（安全キャビネット）を用いて、無菌的に調製しています。



医薬品情報業務

医薬品情報室はDI（Drug Information）室とも言われ、医薬品に関する情報を取り扱う部署です。医薬品情報室では、薬物療法が安全かつ有効、また適正に行われるように、医薬品情報を収集し、情報の加工と専門的評価を加えて医療従事者や患者さんへ情報提供しています。主な業務として、院内からの医薬品に関する問い合わせへの対応、薬剤部ニュース・各種お知らせ・院内採用薬リストの作成を行っています。他にも、薬事委員会、レジメン審査委員会の事務局も担っています。また、院内で起きた副作用の情報を集めて厚生労働省へ報告したり、製薬企業が実施する製造販売後調査の窓口として、販売後の医薬品の安全性の確保に努めています。

医薬品には効能効果、投与方法、使用上の注意、相互作用、副作用など様々な情報があります。医薬品情報は日々更新されており、次々に新薬も発売されています。医薬品情報室では、入手した情報の重要度・緊急度により、その都度、適切に対応することが必要とされます。情報を配布するだけでなく、医師が処方オーダーするシステム上に、注意喚起の情報を設定することで、処方入力時の医薬品の適正使用につなげています。紙面にて情報提供の際は、重要な項目を目立たせるなど、出来るだけ分かりやすいように記載方法を工夫し、問い合わせの回答をする際は、相手の状況を判断し、迅速かつ的確に、付随した必要な情報も提供できるよう心がけています。直接患者さんと関わることは少ないのですが、医薬品に関する情報を早く、正確に、分かりやすく、必要とする人へ情報提供することを使命とし、患者さんがより良い医療を受けられるよう努めています。



医薬品管理業務

医薬品管理室は、主に医薬品の在庫管理、品質管理、及び安全管理に携わる部門です。医薬品安全管理責任者の下、医薬品管理担当薬剤師がマネージャーとなり、薬剤助手と共に安全で安心な薬物療法が行われるよう日々業務を行っています。

(1) 在庫管理

医薬品の購入～搬送までの業務を担っており、医療スタッフと情報交換しながら、患者さんに滞りなく医薬品が供給されるよう努めています。当院は処方オーダーリングシステムと連動した物流管理システムが導入されており、医師による処方入力や院内全部署からの医薬品請求が全て電子化されているため、医薬品の1錠、1アンプル単位での入出庫管理がされています。

医療用麻薬や向精神薬など法律等で厳しく規制されている医薬品もあります。これらも医療には必要不可欠なため、法令に遵守した適切な使用管理をしています。

(2) 品質管理

医薬品には温度、湿度、遮光など様々な保管条件があります。個々の医薬品に合わせた適切な保管管理をすることも医薬品管理室の重要な仕事です。また、医薬品の使用期限管理なども行っており、常に医薬品の品質に心がけています。

(3) 安全管理

ヒューマンエラーを防ぐため、医療安全管理室とも連携をとっています。取り間違い防止対策や投与に注意が必要な医薬品（ハイリスク薬）の対策なども実施しています。

様々な職種と横のつながりを大切にして医療安全の礎の一つとすることが、医薬品管理業務の使命であると考えています。



製剤業務

院内製剤とは、薬剤師により病院内で調製され、その病院に限定して使用される薬のことを言います。医療を行う中で、医薬品医療機器等法（旧薬事法）で承認・販売されている医薬品だけでは、多様な疾病、病態をもつ患者さんに最適な薬物療法を実施できないことがあります。そのような場合に、薬剤師の専門性を活かし、薬学的・物理化学的な知識や技術を用いて行う重要な業務の一つが院内製剤業務です。

院内製剤における医療ニーズは多種多様です。例えば、患者さんが経口摂取不可のため内服錠を坐薬にしたい、試薬（化合物）を原料に軟膏をつかってほしい、小児に使用するため点眼液を希釈してほしいなど様々です。

このような依頼に対して、各種文献や学会発表等をもとに、安全性・有効性を検討した上で調製をします。無菌性が求められる注射薬、点眼薬、眼軟膏などを調製する場合にはクリーンベンチ内で作業するなど、製剤工程の品質管理も欠かせません。

また、がん化学療法や放射線療法に伴う口内炎の予防や治療に用いる“フォイパン含嗽液”は、そのまま使用すると大変苦く、服薬アドヒアランス不良の原因となってしまいます。そこで、単シロップで甘味を加えて使用感・服用感を改善させるなど、服薬アドヒアランスの観点からも最適な治療が行える院内製剤の提供を心掛けています。

院内製剤の安全性や質の確保を実現するためには、常日頃から医師や看護師と連携をとることが大切であり、担当薬剤師は調製行為だけにとどまらず、院内製剤の患者さんへの使用状況の把握にも努めています。

薬剤師がその専門性を活かして院内製剤業務を行うことは、個々の患者さんへの最適な薬物療法の提供に貢献できるとともに、患者さんの QOL（quality of life）の向上にもつながるものと考えます。



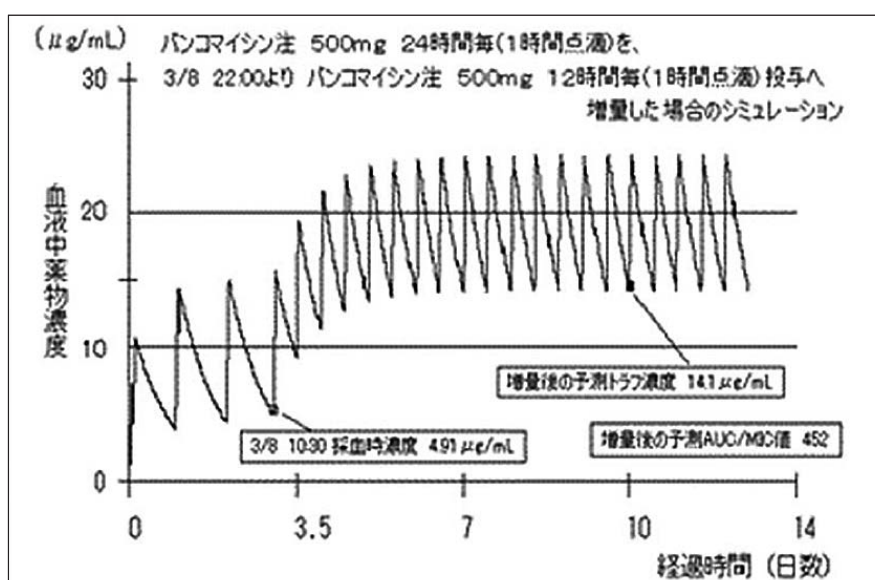
TDM業務

TDMは、Therapeutic Drug Monitoring を略記したもので、主に血中の薬物濃度を指標にして治療管理を行うことを言います。

当院では平成 20 年 10 月から薬剤師による TDM 業務を開始しました。対象としている薬は現在、特定薬剤治療管理料の対象となっている抗菌薬 6 種類（バンコマイシン、テイコプラニン、アルベカシン、アミカシン、ゲンタマイシン、ポリコナゾール）です。その他の薬についても医師からの相談依頼に応じて、その都度対応しています。

薬物動態解析は専任の薬剤師が行い、日々の業務を均質に、そして更なる質の向上に努めています。診療医師からの抗菌薬 TDM 依頼率はほぼ 100 % を推移しており、当院 TDM 業務の有用性が診療医師に理解されている結果と考えています。

薬剤師にとって TDM / 薬物動態領域の知識と実用は不可欠です。しかし、薬学部学生の臨床実務実習において、この領域での訓練の場を実践も交えて提供・教育できる病院は、相対的に不足しています。当院はこの提供ができる環境を備えており、担当者は熱意をもって未来の薬剤師育成に貢献できるよう努めています。



病棟業務

病棟における医薬品適正使用の推進と安全・安心な薬物療法の支援を目的とし、多職種と連携を取りながら病棟業務を行っています。

現在、ICU（集中治療室）を含む全病棟に薬剤師を配置しており、医師、看護師、その他メディカルスタッフとコミュニケーションを取りながら、適切な薬の選択、使用方法等の様々な問い合わせに対応し、医療チームの一員として活動しています。また、入院患者さんの入院前の薬物治療状況の把握ならびに患者さんの病状に適した薬の管理を行い、入院中の薬物治療の有効性の向上と副作用発現の早期発見に努めています。さらに患者さんやご家族に薬物療法についてわかりやすく説明を行い、少しでも安心して治療に臨んでいただけるように心がけています。



主な業務内容

- 入院時の持参薬確認
- 医薬品、健康食品との相互作用確認、アレルギー歴の確認
- 入院患者さんへの服薬指導と副作用モニタリング
- 退院時の服薬指導
- 緊急時に使用する救急カート配置薬の管理
- 入院患者さんの内服薬、外用薬、注射薬の管理
- カンファレンスへの参加
- 医師、看護師、その他メディカルスタッフへの医薬品に関する情報提供
- 薬学部学生の臨床実務実習の指導

外来化学療法センター支援業務

がん化学療法では、しばしば、吐き気や気分不良などの身体症状を伴うことがあり、治療をする中で注意する必要があります。そのため、薬剤部では医師が処方した薬を調剤するだけでなく、医師や看護師と協力しながら、患者さんに正しい薬が正確に投与されるかを確認し、患者さんが安心して治療を受けられるように協力すべく、最善の努力をしています。

がん化学療法を導入する患者さんのもとへ伺い、治療のスケジュールや副作用とその対処法の説明を行っています。また、がん治療で使用する薬と、患者さんが普段、使用している薬や健康食品などとの使い合わせのチェックも行っています。医師や看護師と協力して、患者さんの症状に合わせて最適な薬を使用することを検討しています。

糖尿病療養支援チーム

当院の糖尿病療養支援チームは、医師・薬剤師・看護師・臨床検査技師・管理栄養士・理学療法士で構成され、多職種の医療スタッフが情報共有して連携を図りつつ、専門的知識を活かして患者さんの療養行動を支援しています。



糖尿病療養支援チームには日本糖尿病療養指導士の資格をもつ薬剤師が5名所属し（令和2年6月現在）、「糖尿病教室」での薬についての講義、糖尿病薬（内服薬、注射薬）の服薬指導、外来インスリン導入患者さんに対する指導等を行っています。またチーム活動として、患者さんの情報を共有する「糖尿病カンファレンス」、病院職員向けの「糖尿病勉強会」、地域の方を対象とした「糖尿病フェア」の開催・運営などを行っています。

近年、糖尿病患者さんの増加に伴い新しい糖尿病薬が次々に登場しています。さらに、糖尿病の薬物療法では複数の薬を併用して使用することも多いため、患者さん自身の正しい理解と自己管理がとても重要であると言えます。私たち薬剤師は患者さんが糖尿病の薬を正しく理解した上で、安心して使用できるよう支援しています。

栄養サポートチーム

栄養管理は、すべての疾患治療の上で共通する基本的な医療の一つです。

Nutrition Support（栄養サポート）とは、栄養管理を症例個々や各疾患治療に応じて適切に実施することで、NST（Nutrition Support Team：栄養サポートチーム）とは、この栄養サポートを医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの多職種で実践する集団（チーム）を指します。

当院では平成18年にNSTを設置し、患者さんへの最適な栄養管理のために、お互いの職能を発揮し、多面的に栄養不良の原因を探り、情報共有することで患者さんに対してより良い医療の提供を目指して活動しています。活動内容は、スクリーニングで栄養不良が指摘された患者さんを対象に週1回NSTラウンド・カンファレンスを行い、栄養療法のアセスメントと状態に合わせた静脈・経腸栄養の栄養療法の提案を行っています。NSTの中で薬剤師は、患者さんの既往や症状に合わせた最適な輸液・栄養剤の提案、薬の相互作用や適正使用の確認、薬による副作用の確認などを行い、薬剤師の視点から栄養管理に関わることで、より効果的で安全な栄養管理の支援に努めています。

感染対策チーム

当院の感染対策チーム（Infection Control Team：ICT）は感染管理室に属し、多職種（医師、看護師、検査技師、事務職、そして薬剤師）10名程度で構成され、各職種の専門性を活かしたチーム医療を実践しています。また、現在ICTに含まれている活動の内、抗菌薬適正使用に関連したものをより専門に活動する、抗菌薬適正使用支援チーム（Antimicrobial Stewardship Team：AST）を今後発足する予定です。詳細は「感染管理室」をご覧ください。

現在、担当薬剤師が主体となって取り組んでいる日常業務を、以下に示します。

（1）感染症における薬物治療への関与

- 抗菌薬適正使用の診療支援〔感染症ラウンド（週2回）〕
- 抗菌薬の選択・用法用量提案〔診療医師からの問い合わせ対応（随時）〕
- 特定抗菌薬（特に注意が必要な抗菌薬）の使用モニタリング
- AUD（Antibiotic Usage Density：抗菌薬使用密度）の診療科毎算出とその評価（月1回）
- 院内採用抗菌薬の妥当性検討
- 院内抗菌薬適正使用手引きの整備

- 抗菌薬適正使用推進のための教育・啓発
- 他施設との抗菌薬適正使用の情報共有と連携

(2) 消毒薬への関与

- 消毒薬使用・管理の適正化〔環境 ICT ラウンド（週1回）〕
- 院内採用消毒薬の妥当性検討
- 院内消毒薬適正使用・管理手引きの整備

緩和ケアチーム

がん患者さんは、がん自体の症状のほかに、痛み、倦怠感などの身体的な症状や、落ち込み、悲しみなどの精神的な苦痛を経験します。「緩和ケア」は、がんと診断されたときから行う、身体的・精神的な苦痛を和らげるためのケアです。当院の緩和ケアチームは平成22年12月に設置され、医師2名（外科・精神科）・看護師2名・薬剤師4名・医療ソーシャルワーカー1名で構成されており、栄養士・リハビリ専門職（理学療法士、作業療法士）といった他職種とも連携しながら入院患者さんの苦痛の予防と軽減を図り、患者さんの生活の質（QOL）を改善することを目標に、以下の活動を行っています。

- 緩和ケアチームに依頼のあった入院患者さんについて、定期的にカンファレンスおよび回診を行っています。薬剤師は痛みなどの苦痛症状を和らげるための薬の選択や投与量の検討、副作用の防止などに関わっています。
- 痛みに対して医療用麻薬を使用している全ての入院患者さんのカルテ回診を行い、病棟常駐薬剤師と連携して薬の使用状況を把握し、適正使用を促しています。
- 当院では在宅麻薬ポンプを採用し、注射による医療用麻薬を使用している患者さんの自宅退院を可能としています。薬剤師は処方設計の提案からクリーンルーム内での無菌調製、自宅での在宅麻薬ポンプの管理に至るまで幅広く関わっています。
- 緩和ケアに関する情報を院内ホームページに掲載するとともに、医療スタッフ対象の緩和ケア勉強会を開催するなど、病院職員の知識向上に努めています。薬剤師は緩和ケアに用いる医薬品情報について、随時、ホームページ内容の更新を行っています。

緩和ケアチームにおける「薬の専門家」として多職種と協働しながら、より専門性の高い緩和ケアを提供できるよう、日々、取り組んでいます。



褥瘡対策チーム

褥瘡（じょくそう）とは、寝たきりなどによって、体重で圧迫されている場所の血流が悪くなったり滞ることで、皮膚の一部が赤い色味をおびたり、ただれたり、傷ができてしまうことです。一般的に「床ずれ」ともいわれています。

当院では、医師、看護師、栄養士、理学療法士、薬剤師で褥瘡対策チームを構成し、週に1回の褥瘡対策チームラウンドを行っています。褥瘡ラウンドでは、褥瘡ができてしまった入院患者さんを対象に、多職種で情報を共有し、疾患、治療、栄養状態を考慮した全身管理をチームで行っています。

褥瘡対策チームにおける薬剤師は、回診時に患者さんの褥瘡状態に適した薬の提案、使用方法や保管方法についての評価・助言、その他薬に関する情報提供などを行い、適切な褥瘡治療に努めています。また、褥瘡の発生予防や対策を行う褥瘡対策委員会に参加し、患者さんの生活の質（QOL）の向上を目指しています。



災害派遣医療チーム

DMAT（災害派遣医療チーム）は、大規模災害・事故が発生した際に、現場へ迅速に駆けつけ医療活動ができるよう、専門的な訓練を受けた医療チームです。当院では平成25年にDMATが編成され、薬剤師もDMAT隊員として活動しています。薬剤師は医薬品等の管理・供給、災害情報の通信、医療活動の補助・記録を行っています。平成27年9月に発生した茨城県の豪雨災害に対して当院DMATも出動し、患者搬送等に従事しました。災害発生時に迅速に対応できるよう、日々業務を行いながら訓練や研修に取り組んでいます。

医療安全管理

患者さんに医薬品を適正に使用していただくためには、医薬品管理体制の強化を図るばかりではなく、患者さんをはじめ医療スタッフへの迅速な情報提供が欠かせないと考えております。そのために、当院では医療安全管理室、看護部、薬剤部の連携を特に高めてまいりました。これら三部署での定例会議では些細なことでも話題に取り上げて大きな事故につながらないように努めております。また、医療安全管理者と医薬品安全管理責任者との院内ラウンドなどを通じて医療事故発生源の撲滅を目指しています。

学生教育

北里大学附属病院の使命として、薬学生を中心とした卒前教育に深く関わっています。薬学生に対する低学年からの段階的な卒前教育、多職種連携教育（チーム医療病院実習）を通して、将来、医療に携わる上で必要な基本的な知識・技能・態度を身につけた薬剤師の育成を目指しています。

北里大学薬学部学生の教育

早期体験実習 [1年生]

薬学部に入學直後の薬学生に対し、病院薬剤師の役割を理解させ学習の動機づけをするため、薬剤部や病棟での薬剤師業務の見学を行っています。また病院内の各部門の見学も行い、病院機能の一部を学んでいます。

病院実務実習 [5年生]

薬学部5年生は、病院と薬局で各11週間、実務実習を行います。病院では、病院薬剤師の業務と責任を理解し、チーム医療に参画できるようになるため、薬剤師の指導のもとで様々な薬剤師業務を体験します。当院薬剤部でも、薬学部の教員と薬剤部職員が連携して、指導に当たっています。

薬学卒業特別実習 [4-6年生]

当院では、薬学部薬物治療学4研究室の教員が薬剤部の仕事を兼務しています。複数名の薬学生が、薬物治療学4研究室に配属して卒業研究を行っています。学生は、配属期間中に薬物治療や薬剤師業務に関連した臨床薬学研究を行い、その成果を学内の報告会や学会で発表します。また一部の薬剤師業務を継続的に体験できるのも、病院内の研究室で研究を行う利点です。

北里大学医療系学部学生のチーム医療教育

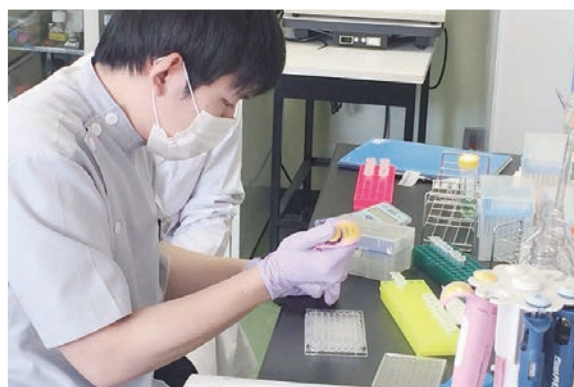
北里大学では多職種連携教育の一つとして、夏期に「チーム医療病院実習」が実施されます。北里大学医療系学部の学生が実際のチーム医療に接し、チームで問題解決に当たる姿勢を身につけるための卒前教育の一つです。当院では、褥瘡対策チーム、糖尿病療養支援チーム、栄養管理チーム、感染対策チームなどで実習が行われ、薬剤師は他のメディカルスタッフと共に実習指導に携わっています。



薬剤部の研究

薬剤部薬剤師及び病院常駐の薬学部教員は、薬物治療や薬剤師業務に関連した様々な研究を病院内で展開しています。プロジェクト研究、薬学部学生の卒業研究指導を中心に、薬剤師や薬学部教員との連携のみならず、医師や看護師らとの共同研究へと進展させていくことができるように、また研究成果を医療にフィードバックできるように目指しています。

臨床研究は院内の倫理委員会の審査を受けて承認され、個人情報の保護に関する法律や、その他関係法令、国および行政が定める指針等ならびにガイドラインを遵守して、実施されています。



臨床研究は文部科学省・厚生労働省が示している「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に従って行い、また院内の倫理委員会の承認を受けて実施されています。

以下に現在進行している研究内容を記載しました。

- 内服薬 HD の環境曝露に配慮した特殊調剤・清掃法に関する研究
- 糖尿病患者の服薬アドヒアランスに影響を及ぼす因子の検討
- メトホルミンの用量依存的効果・安全性についての検討
- ICU（集中治療室）における重症病態患者の栄養評価に関する検討
- GLP-1 受容体作動薬投与における効果および有害事象に関する検討
- BARC 出血基準を用いた DOAC の有効性・安全性に関する検討
- ホルモン剤における血栓症予防に関する研究

薬生発 0712 第 3 号
令和 4 年 7 月 12 日

各都道府県知事 殿

厚生労働省医薬・生活衛生局長
(公 印 省 略)

「薬と健康の週間」の実施について

医薬品や薬剤師等の専門家の役割に関する正しい知識を広く国民の間に浸透させることにより、国民の保健衛生の維持向上に寄与することを目的として、令和4年10月17日（月）から10月23日（日）までの1週間で「薬と健康の週間」とし、別添の令和4年度「薬と健康の週間」実施要綱に基づき、実施することとしましたので、格段のご配慮をお願い申し上げます。

なお、貴管下市町村に対しては、その協力を得られるようお取り計らいいただくとともに、実施状況の報告を併せてお願い申し上げます。

保健所設置市長と特別区長に対しては、本職より別途通知していますので申し添えます。

(別添3) 出前講座の案内

- 副作用被害救済制度のご説明
- 副作用等報告制度のご説明

全国どこでも！
休日・夜間でも！

に、PMDAより講師派遣いたします(出前講座)。



ドクトルQ



講師の派遣については、交通費、謝礼金等は一切 いただいておりません。 医療機関、医師会、薬剤師会、行政機関などでの研修に、ぜひお役立てください。

【連絡先】

健康被害救済部企画管理課

◆出前講座に関する連絡先

電話番号:03-3506-9460 Eメール : kyufu@pmda.go.jp

◆救済制度相談窓口

電話番号 : 0120-149-931(フリーダイヤル)

受付時間 : (月～金)9時～17時(祝日、年末年始を除く)

Eメール : kyufu@pmda.go.jp

◆救済制度及び出前講座の詳細はPMDAホームページをご覧ください。

<https://www.pmda.go.jp>

「PMDA 出前講座」→ 検索！

医療関係者の皆さまへ

医薬品副作用被害救済制度

eラーニングで 学びませんか？

PMDAでは、医薬品副作用被害救済制度の周知向上を図るために医療機関や自治体などに向けて、医薬品副作用被害救済制度等に関する出前講座を行っております。講座で使用しているスライドを用いたeラーニング講座で制度を学びませんか？このeラーニングはパソコンはもちろん、スマートフォンやタブレットで時間・場所を問わず利用することが出来ます。



ドクトルQ

2021年
10月15日より
特設サイトが
リニューアルされました！

Point 1 講座の受講料は不要

医薬品副作用被害救済制度特設サイトに常時掲載。どなたでも何度でも利用が可能です。

Point 2 研修や講義でも利用可能！

医療機関・医師会・薬剤師会・行政機関等の研修や大学等での講義で利用可能です。
事前にご連絡をいただければ視聴者数や受講者名簿を主催者にご提出することも可能です。



独立行政法人 医薬品医療機器総合機構
Pharmaceuticals and Medical Devices Agency

医薬品副作用被害救済制度

eラーニング講座の受講方法



1

PMDAのトップページから
【医薬品副作用被害救済制度】
特設サイトのバナーをクリック。



【医療関係者の皆さま】ボタンをクリック

2

お薬を使うすべての方にとってほしい制度です。

医薬品副作用被害救済制度

一般国民の皆さま 医療関係者の皆さま



【医療関係者の皆さま】トップの
【eラーニング講座】ボタンをクリック



3



【eラーニング講座】のトップページへ。



【問い合わせ先】 医薬品医療機器総合機構 健康被害救済部 企画管理課

■ eラーニング講座に関する問い合わせ

電話番号：03-3506-9460 Eメール：kyufu@pmda.go.jp

■ 医薬品副作用被害救済制度相談窓口

0120-149-931 受付時間：(月～金) 9時～17時 (祝日、年末年始を除く)

Eメール：kyufu@pmda.go.jp

■ eラーニング講座の詳細は PMDA ホームページ特設サイトをご覧ください。

https://www.pmda.go.jp/kenkouhigai_camp/general06.html



●●●●●●●●
会のうごき
●●●●●●●●

- 1月6日 第34回精神科領域委員会（オンライン会議）
- 1月12日 第31回がん領域委員会（オンライン会議）
- 1月13日 第313回病院薬学研修会（オンライン研修会）
- 1月14日 第2回薬事運営・実習教育委員会合同会議（オンライン会議）
- 1月15日 第31回新任薬剤師研修会（オンライン研修会）
- 1月17日 第13回妊婦授乳婦・小児科領域研修会（オンライン研修会）
- 1月20日 第64回評価委員会 於：事務局
- 1月21日 日本病院薬剤師会第10回関東ブロック会長会議に北澤貴樹会長、町田充副会長が出席（オンライン会議）
- 1月22日 第27回認定薬剤師認証研修協議会（CAPEP）に大塚潔センター長、濱浦陸雄評価委員会委員長が出席（オンライン会議）
- 1月27日 第36回地域研修委員会（オンライン会議）
- 2月4日 第15回感染制御領域委員会（オンライン会議）
- 2月8日 第99回抗がん剤研修会（オンライン研修会）
- 2月8日 第135回輸液・栄養管理領域委員会（オンライン会議）
- 2月10日 第10回特別対策研修会（オンライン研修会）
- 2月15日 第6回理事会（オンライン会議）
- 2月17日 第21回臨床業務実践講座「糖尿病」（オンライン研修会）
- 2月26日 日病薬第64回臨時総会に岸野亨・町田充各副会長、新井成俊・近藤正巳各理事がWebで出席
- 3月2日 第6回妊婦授乳婦・小児科領域委員会（オンライン会議）
- 3月8日 第132回輸液・栄養管理研修会（オンライン研修会）
- 3月15日 2021年度臨時総会（オンライン会議）
- 3月15日 第1回選挙管理人会議（オンライン会議）
- 3月16日 第22回臨床業務実践講座「糖尿病」（オンライン研修会）
- 3月17日 第65回評価委員会 於：事務局
- 3月18日 第43回精神科薬物療法研修会（オンライン研修会）
- 3月20日 日病薬タスク・シフティング推進事業特別委員会・医療政策部セミナーに町田充副会長がWebで参加

3月21日	第22回県民のためのくすり講座（オンライン講座）	
3月23日	第14回埼玉緩和薬物療法研修会（オンライン研修会）	
4月6日	第1回広報委員会	小峰ビル1階会議室
4月19日	第1回理事会（オンライン会議）	

●●●●●●●●●●●●●●●●
理事会開催報告
●●●●●●●●●●●●●●●●

令和3年度 第6回 理事会議事録

開催日時：2022年2月15日（火）17：30～18：30

開催場所：オンライン会議（ZOOM）

キーポイント 小峰ビル 4階 事務局（さいたま市浦和区高砂3-12-24）

理事定数：15名以上20名以内（理事現在数20名）

出席者：理事 北澤貴樹、新井成俊、伊藤典子、大塚潔、金子智一、岸野亨、小杉隆祥、
近藤正巳、渋谷清、須田修輔、曾我部直美、多田幸子、長谷部忠史、
濱浦睦雄、日比徹、眞壁秀樹、町田充、源川良一、矢吹直寛（以上19名）

監事 三宮忠、杉田和夫

事務局 中村房子、金子久代

議事の経過の要領及びその結果

I 議長選出 北澤貴樹を全員一致で選出した。

II 報告事項

1. 令和3年度第5回埼病薬理事会議事録（12/21）

近藤正巳総務委員会委員長より報告があった。

2. 会務報告（12/22～2/15）（近藤）

近藤正巳総務委員会委員長より報告があった。

3. 第2回薬事運営委員会・実習教育委員会議事録（1/14）

町田充担当幹事より報告があった。

4. 生涯研修センター会議議事録

4-1 第64回評価委員会議事録（1/20）

濱浦睦雄評価委員会委員長より報告があった。

4-2 第36回地域研修部会議事録（1/27）-

新井成俊地域研修部会（西・北担当）委員長より報告があった。

4-3 第31回専門研修部会（がん領域）議事録（1/12）

源川良一専門研修部会（がん領域）委員長より報告があった。

4-4 第15回専門研修部会（感染制御領域）議事録（2/4）

岸野亨専門研修部会（感染制御領域）委員長より報告があった。

4-5 第34回専門研修部会（精神科領域）議事録（1/6）

須田修輔専門研修部会（精神科領域）委員長より報告があった。

4-6 第135回専門研修部会（輸液・栄養管理領域）議事録（2/8）

小杉隆祥専門研修部会（輸液・栄養管理領域）委員長より報告があった。

5. その他

5-1 日病薬新型コロナウイルス感染症の対応について（2/1）

日本病院薬剤師会紀平健治会長よりの情報について北澤貴樹会長より報告があった。

- 5-2 第8回関ブロ会長会報告 (1/13)
北澤貴樹会長より報告があった。
- 5-3 次世代薬剤師指導者研修会について (2/11)
町田充副会長より報告があった。
- 5-4 第27回 CAPEP について (1/22)
大塚潔生涯研修センターセンター長より報告があった。その中で当日資料内の記述文言の「G15の当センターが学会認定単位の調査を行う」旨が伝達された。

Ⅲ審議事項

1. 入会希望者の承認

近藤正巳総務委員会委員長より次表の通り、A会員2名・C会員1名より入会希望があり議場に承認を求めたところ、全員異議なく本件は承認された。

2. 2021年度臨時総会について (3/15)

近藤正巳総務委員会委員長より資料2に基づき説明がなされ議場に承認を求めたところ、全員異議なく本件は承認された。尚、追加変更がある場合は、2/21(金)までに事務局へ報告となった。

開催形式はZOOM形式。開始時刻は18時30分から三役と近藤理事ならびに事務局員が事務局に参集・発信。

議長は田村氏(川口市立)。議事の第1号議案は曾我部副会長、第2号議案は近藤理事、第3号議案は町田副会長。尚、発声は永野氏(埼玉医大)

開会ならび閉会の辞は、配布資料どおり。

3. 2022年度通常総会について (5/16) (近藤)

本総会は、集合型を計画中のため、会場予約の関係で月曜日開催となった。

また、役員選挙が実施予定であるため近藤正巳総務委員会委員長より下記の方々に選挙管理人、および立会人を任命したいことが説明された。北澤貴樹会長が本件について議場に承認を求めたところ、全員異議なく承認された。

選挙管理人 猪股ふみ子(委員長)(自治医科大学附属さいたま医療センター)

大木崇弘(埼玉市民医療センター)

坂上洋子(獨協医科大学埼玉医療センター)

田村賢士(川口市立病院)

永野浩之(埼玉医科大学病院)

中田和宏(越谷市立病院)

伊賀正典(さいたま赤十字病院)

立会人 齋藤健一(埼玉医科大学総合医療センター)

北畑智英(済生会川口総合病院)

4. 後援・協力依頼について

下記2件の集会について北澤貴樹会長より紹介があり、承認された。

第20回乳がんフォーラム in 和光 (5/8)

第5回群馬県薬学大会 (5/15)

5. 広報誌「埼玉病薬」電子版について

冒頭に渋谷清広報委員会委員長より広報誌「埼玉病薬」電子版について資料5に基づい

て説明があった。これをもとに北澤貴樹会長が本件について議場に承認を求めたところ、全員異議なく承認された。

尚、源川理事から会誌発行の有無（費用削減のため）について質疑があり、会員からの会費徴収の面から電子版のホームページ掲載と並行して冊子も送付することの回答があり、承認された。

6. 委員の追加などについて

下記2件について各々委員会委員長より提案があり、北澤貴樹会長が本件について議場に承認を求めたところ、全員異議なく承認された。

○渋谷清広報委員会委員長より中島輝一委員（秀和総合病院）の委員辞退

○小杉隆祥輸液・栄養管理部会委員長より2名の委員の追加

小林このみ（上尾中央総合病院）

沢辺正和（川口医療センター）

7. 日本病院薬剤師会関東ブロック第54回学術大会について

北澤貴樹会長より2024年の日本病院薬剤師会関東ブロック第54回学術大会の担当県であることが改めて話され、事前準備としてソニックシティとも協議をし、以下のことが提案され、本件について議場に承認を求めたところ、全員異議なく承認された。

開催期日：2024年8月10日（土）～11日（日）

開催事前準備：2024年8月9日（金）

開催場所：ソニックシティビル（展示場・国際会議場・小ホール・6階各会議室・9階各会議室）

その他：・大宮パレスホテル・OLSビル等の使用は今後検討する。

・本学術大会の準備実行委員会の起ち上げを本年5月以降とする。

・本学術大会運営業務委託は、株式会社メディセオとする。

・次回理事会は4月19日（火）、17時半からのオンライン会議とする。

以上をもって議事を終了したので、議長は18時30分閉会を宣した。

令和4年度 第1回 理事会議事録

開催日時：2022年4月19日（火）17：30～18：30

開催場所：オンライン会議（ZOOM）

キーポイント 小峰ビル 4階 事務局（さいたま市浦和区高砂3-12-24）

理事定数：15名以上20名以内（理事現在数20名）

出席者：理事 北澤貴樹、新井成俊、伊藤典子、大塚潔、金子智一、岸野亨、近藤正巳、
渋谷清、須田修輔、曾我部直美、多田幸子、長谷部忠史、濱浦睦雄、日比徹、
眞壁秀樹、増田裕一、町田充、矢吹直寛（以上18名）

監事 三宮忠

事務局 中村房子、金子久代

議事の経過の要領及びその結果

I 議長選出 北澤貴樹を全員一致で選出した。

II 報告事項

1. 2021年度臨時総会議事録（3/15）

近藤正巳総務委員会委員長より報告があった。

2. 令和3年度第6回埼病薬理事会議事録（2/15）

近藤正巳総務委員会委員長より報告があった。

3. 会務報告（2/16～4/19）（近藤）

近藤正巳総務委員会委員長より報告があった。

4. 第1回選挙管理人会議事録（3/15）

近藤正巳総務委員会委員長より報告があった。

5. 第1回広報委員会議事録（4/6）

渋谷清広報委員会委員長より報告があった。

6. 第65回評価委員会議事録（3/17）

濱浦睦雄評価委員会委員長より報告があった。

7. 第6回妊婦授乳婦・小児科領域研修部会議事録（3/2）

岸野亨妊婦授乳婦・小児科領域研修部会委員長より報告があった。

8. 日病薬令和3年度タスク・シフティング推進事業特別委員会 / 医療政策部セミナー（3/20）

町田充副会長より報告があった。

9. WSおよびAWS開催について

眞壁秀樹実習教育委員会委員長より以下の通り報告があった。

- ・今年度のWS開催は2022年8月6.7日（城西大学）、2023年1月8.9日（日本薬科大学）の2回を予定している。病薬の参加枠については埼玉県薬剤師会と調整中である。
- ・今年度の座学講習会は9月11日及び12月18日を予定しているが会場は未定である。
- ・今年度もAWSの開催を予定しているが時期や会場は未定である。
- ・4月1日より認定実務実習指導薬剤師養成事業が日本薬剤師研修センターから薬学教育協議会に変更になった。尚、更新講習のE-ラーニングのみ引き続き日本薬剤師研修センターにて行う。

- ・WS参加者についてはコロナ過により開催規模が縮小されていることから、緊急性を要する施設を優先しその後以前からの希望者が多数お待ち頂いていることからその方を中心に参加して頂くため、大々的な募集に関してはもう少し先になるとの報告があった。

10. 令和3年度生涯研修認定申請について
金子智一総合研修部会委員長より報告があった。
11. 埼病薬研修会収支明細について
中村房子事務局員より報告があった。

Ⅲ審議事項

1. 入会希望者の承認

近藤正巳総務委員会委員長より次表の通り、A会員23名・C会員2名より入会希望があり議場に承認を求めたところ、全員異議なく本件は承認された。

2. 2022年度通常総会について(5/16)(近藤)

近藤正巳総務委員会委員長より以下の報告と提案があり、議場に承認を求めたところ、全員異議なく承認し、可決した。

- ・本総会は、5月16日集合型で開催。会場予約の関係で月曜日開催とする。

- ・開催形式はソニックシティビル603会議室での集合形式。

第1号議案 2021年度事業報告(町田充副会長)

第2号議案 2021年度決算報告(近藤正巳総務委員長)

第3号議案 2021年度監査報告(三宮忠監事へ依頼)

第4号議案 役員選任

第5号議案 その他 閉会の辞は曾我部直美副会長

- ・選挙管理人は以下の通りとする。尚、伊賀正典氏(さいたま日赤)は転勤のため、除外とする。

猪股ふみ子(委員長)(自治医科大学附属さいたま医療センター)

大木崇弘(埼玉市民医療センター)

坂上洋子(獨協医科大学埼玉医療センター)

田村賢士(川口市立病院)

永野浩之(埼玉医科大学病院)

中田和宏(越谷市立病院)

- ・選挙立会人 齋藤健一(埼玉医科大学総合医療センター)

北畑智英(済生会川口総合病院)

3. 後援・協力依頼について

下記4件の集会について北澤貴樹会長より説明があり、議場に承認を求めたところ、全員異議なく承認し、可決した。

①第23回埼玉 老年・泌尿器科研究会(7/9)

②2022年度日本薬学会関東支部市民講座(6/11)

③第2回さいたま市薬剤師会学術大会(6/12)

④さいたま地域連携Network(6/29)

なお、①に関してはG15の実施団体の為、生涯研修センターカレンダーにも詳細がのっ

ており、終了後参加者には G15 シールが付与。

②以下は後援のみのため本会ホームページトピックスで紹介。

4. 委員の追加変更

以下の通り広報委員会及び2研修部会から委員の変更・辞任・新規委嘱が提案され議場に承認を求めたところ、全員異議なく本件は承認された。

- ・ 渋谷広報委員会委員長より2名の委員辞退の報告
 稲盛美美（埼玉メディカルセンター）
 近藤郁子（自治医科大学附属さいたま医療センター）
- ・ 長谷部忠史地域研修部会委員長より2名の委員の追加
 中央ブロック 加藤綾乃（蕨市立病院）、林野守将（丸山記念総合病院）
- ・ 岸野亨感染制御研修部会委員長より1名の委員の辞退、2名の委員の追加
 辞退 井田真仁（獨協医科大学埼玉医療センター）
 追加 亀田皓介（獨協医科大学埼玉医療センター）
 大根規正（熊谷総合病院）

5. 広報誌「埼玉病薬」電子版について

渋谷清広報委員会委員長より広報誌「埼玉病薬」電子版について来月発行の5月号より電子版（オールカラー）、ホームページへのアップを開始するとの説明があった。また、ホームページ掲載の議事録には入会者氏名は削除して掲載することも伝達され、これをもとに北澤貴樹会長が本件について議場に承認を求めたところ、全員異議なく承認された。

6. ウクライナへの支援のための支援金募集について

本会の会費と会員数から鑑み、また、当日資料も参照の上、5万円を支援金としたいとの北澤貴樹会長の提案があり、議場に承認を求めたところ、全員異議なく承認された。今後、支援追加があった場合に検討する旨も確認された。

7. その他

以下の2件について各理事より提案がありこれに基づき議場に承認を求めたところ、全員異議なく承認された。

- ・ 金子智一総合研修部会委員長より本年度の関東ブロック学術大会で演題を提出したい。
- ・ 認定薬剤師研修プロバイダーの3団体が生涯研修支援機構を設立し、薬剤師向けシステムの提供を始めた。本会は、生涯研修センター（G15）は日本病院薬剤師会（P04）との兼ね合いを考慮し、現在の所は静観するとの提案が大塚潔生涯研修センター長よりあり、議場に承認を求めたところ、全員異議なく承認された。
- ・ 「診療記録などを収集・集計する臨床研究におけるインフォームド・コンセントの取扱いについて（日病薬発第2022-15号 令和4年4月14日）」について意見が交わされた。各施設内で対応をお願いし、情報共有を会長から求めがあった。事務局より各理事に本書類を送信する旨が伝達された。
- ・ 次回理事会は5月16日（月）、2022年度通常総会後に行う。

以上をもって議事を終了したので、議長は18時30分閉会を宣した。

●●●●●●●●●●●●●●●●●●
 委員会開催報告
 ●●●●●●●●●●●●●●●●●●

2021 年度 第 2 回薬事運営・実習教育委員会合同会議議事録

開催日時	2022 年 1 月 14 日（金） 16：30～17：30
開催場所	オンライン開催
出席者	担当幹事 町田充 実務教育委員長 真壁秀樹 薬事運営委員長 矢吹直寛 災害担当 鈴木善樹、伊賀正典、立石直人 委員：日比徹、濱浦睦雄、岡田直子、澤田唯美、齋藤健一、野村淳、井上雅美、 横田敬之、湯村健一、竹内絵美、高野明香、逸見和範 欠席：横山麻菜美 湯村健一
議題	薬事運営委員会より ①本年度の薬事研修会について ②「県民のための公開講座」について ③災害対策について 実習教育委員会より ④今後のワークショップについて
決定事項	① <u>本年度の薬事研修会についての報告</u> 11 月 26 日（金） 演者は埼玉県薬剤師会 会長 齊藤 祐次 先生に演題として「オール薬剤師構想＝オール埼玉」で開催した。参加者は 155 名であった。アンケート結果も好評であった。アンケート結果より次回の内容を今後検討していく事とした。 ②「 <u>県民のための公開講座</u> 」について ・開催日時：2022 年 3 月 21 日（祝・月）、14：00－15：00、オンライン開催。 ・演者として医師は埼玉医科大学総合医療センター 総合診療内科 教授 岡 秀昭先生。（演題は岡先生に確認）薬剤師は感染制御専門薬剤師の防衛医科大学校病院 鈴木 剛史 先生。演題は「(仮) 日常生活での感染管理のポイント」（演題は鈴木先生に確認）とする。 ・今回初の完全オンライン開催であるため、従来よりも広い範囲に広報を行い、県内全土から参加出来るように広報に努める。また、一般県民が参加しやすいように、QR コード付きのポスターや案内はがきを作成していく事とした。 ・アンケート回収に関しても、ズーム機能を使い行う事とした。 ③ <u>災害対策について</u> 現在の災害対策について、鈴木委員より埼玉県病院薬剤師会の現状などの報告があった。 ・2021 年 11 月 28 日（日）第 4 回彩の国さいたま PhDLS プロバイダーコース開催。受講生として 27 名が参加（全て調剤薬局薬剤師）スタッフとして、病院薬剤師多数参加した。プログラム内容や実際に行った感染対策など鈴

	<p>木委員より説明があった。</p> <p>④令和4年度のワークショップに関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度のワークショップに関しては、1月24日に関東地区調整機構の総会において検討されるが、埼玉県薬剤師会と相談し希望としてワークショップは3P9Sもしくは2P6S、アドバンストワークショップは1P3Sで要望を出す予定である。 ・1月23日の更新講習会には埼玉県病院薬剤師会より27名の参加申し込みがあり要件を満たしている方は全て受講できるように配慮頂いている。 ・今回要件を満たせず更新講習会で受講出来なかった方もしくは今後更新が必要な方は、日本薬剤師研修センターの新しいシステムが稼働されればそちらを受講いただくか関東地区調整機構主催の更新講習を受講いただくかのどちらかとなる。 ・更新が必要な方の把握や連絡は人数が多いことからタイムリーに対応していくことは厳しいと思われるが今後検討が必要である。 ・明治薬科大学の就職説明会の案内が来ているので参加を予定している。ご協力をお願いします。
<p>次回開催予定日 場 所</p>	<p>未定</p>
<p>文 責 者</p>	<p>矢吹直寛</p>

第1回 選挙管理人会議議事録

開催日時：2022年3月15日（火）18：30～20：30

開催場所：小峰ビル 1階 会議室

出席者：選挙管理人 猪股ふみ子、坂上洋子、田村賢士、永野浩之、伊賀正典

立会人 齋藤健一

陪席 近藤正巳

事務局 中村房子、金子久代

議事 I 総会の選挙について検討

- ・役員選任規則、役員選任施行規程の理解

通読の上、意見交換をして疑問点を検討し、全員が理解した。

選挙管理補助者として以下の2名を決定した。

選挙管理補助者 金子久代、中村房子

総会通知（5/16）、および委任状のひな形をもとに内容を確認し決定した。

通常総会（5/16）開催お知らせのホームページ公開内容を確認し決定した。

役員候補の選挙に関する告示（4/1）の内容を確認し決定した。

（通知の発送・届の開始・立候補締切 4/15）

選挙の流れについて意見交換した。

II 立候補者書類に関しての検討

- ・提出書類の書式などを確認した。
- ・役員候補の選挙に関する状況報告もフォーマットを確認した。

III 次回会議についての予定

- ・4/20に開催予定。（通常総会 5/16）
- ・役員立候補の締め切りが4/15のため、4/20に選挙管理人・選挙管理補助者で提出書類の確認の上、立候補届の受理を決定する。
- ・その上、役員候補の選挙に関する状況報告を作成し、ホームページでも閲覧期間（5/1～5/15）に見られる形にする。
- ・通常総会資料確認、総会運営計画を確認する。
- ・総会司会者進行原稿案、議長進行原稿案、選挙管理人進行原稿案、投票用紙案、委任状枚数表示用紙案、選挙管理人報告案確認

IV その他

※現在流行が広まりつつある新型コロナ感染対応のために通常総会が延期等変更となった場合は、適宜対応するものとする。

※本会議関係者は総会当日印鑑（認印）を持参のこと。

選挙管理人 委員長 猪股 ふみ子（自治医科大学附属さいたま医療センター）

委員 大木 崇弘（さいたま市民医療センター）

	坂上 洋子 (獨協医科大学埼玉医療センター)
	田村 賢士 (川口市立医療センター)
	永野 浩之 (埼玉医科大学病院)
	中田 和宏 (越谷市立病院)
	伊賀 正典 (さいたま赤十字病院)
選挙立会人	北畑 智英 (済生会川口総合病院)
	齋藤 健一 (埼玉医大総合医療センター)
選挙管理補助者	金子 久代 (事務局) 中村 房子 (事務局)

埼玉県病院薬剤師会生涯研修センター
第64回評価委員会議事録

開催日時	2022年1月20日(火) 18:30～19:30
開催場所	小峰ビル4階 埼玉県病院薬剤師会事務局
出席者	内部委員：大塚潔、濱浦陸雄、中村房子 事務局：金子久代 欠席：内部委員（興野克典、佐野邦明、新津京介、日比徹） 外部委員（真野泰成、安野伸浩、野澤玲子、大島新司、堀野忠夫）
配布資料	1. 第63回評価委員会議事録 2. 申請に基づく認定薬剤師適否評価表(9件)
協議事項	濱浦陸雄委員長より出席委員の確認があった。 [1] 申請に基づく薬剤師認定について(9件) ・事務局より説明。 認定申請を1月20日までに9名より受け付けたので審議されたい。 ・受付No571 松岡和代、申請31.5単位更新1回⇒研修手帳その他確認のうえ承認 ・受付No572 原田直美、申請40単位更新2回⇒研修手帳その他確認のうえ承認 ・受付No573 高野知江子、申請43単位新規⇒研修手帳その他確認のうえ承認 ・受付No574 小杉信義、申請47単位更新1回⇒研修手帳その他確認のうえ承認 ・受付No575 小野喜美子、申請32単位更新3回⇒研修手帳その他確認のうえ承認 ・受付No576 小野貴之、申請31単位更新1回⇒研修手帳その他確認のうえ承認 ・受付No577 渡真弓、申請50単位更新1回⇒研修手帳その他確認のうえ承認 ・受付No578 矢部晴菜、申請30単位更新1回⇒研修手帳その他確認のうえ承認 ・受付No579 上田大貴、申請31単位更新1回⇒研修手帳その他確認のうえ承認 ・上記9人について委員会として申請に基づく認定薬剤師適否判定表に沿って審議し、承認をした。 [2] その他 各人の申請を点検したところ【様式2】<認定申請時の研修レポート>の記入内容が不十分なものが9件中2件見られた。今回は認定申請については承認するが、本人たちにはこのレポートの書き方について注意喚起の文書(別紙参照)を添付したうえで認定証などを送付することとなった。
次回開催予定	2022年3月
文責者	濱浦陸雄

第 65 回評価委員会議事録

開催日時	2022 年 3 月 17 日（木） 18：30～19：30
開催場所	小峰ビル 4 階 埼玉県病院薬剤師会事務局
出席者	<p>内部委員：大塚潔、濱浦陸雄、中村房子 事務局：金子久代</p> <p>欠 席：内部委員（興野克典、佐野邦明、新津京介、日比徹） 外部委員（真野泰成、安野伸浩、野澤玲子、大島新司、堀野忠夫）</p>
配布資料	<p>1. 第 64 回評価委員会議事録 2. 申請に基づく認定薬剤師適否評価表（11 件） 濱浦陸雄委員長より出席委員の確認があった。</p>
協議事項	<p>[1] 申請に基づく薬剤師認定について（11 件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より説明。 認定申請を 1 月 20 日までに 9 名より受け付けたので審議されたい。 ・受付 No580 長谷部誠、申請 45.5 単位新規⇒研修手帳その他確認のうえ承認 ・受付 No581 萩原真智子、申請 31 単位更新 2 回 ⇒研修手帳その他確認 e ラーニング 25 単位中 10 単位承認 故に合計単位 11 単位となり更新は非承認。 今後の為には追加で 24 単位取得し、新規申請となる ・受付 No582 渡邊真弓、申請 35 単位更新 2 回⇒研修手帳その他確認のうえ承認 ・受付 No583 三宮忠、申請 42 単位更新 3 回⇒研修手帳その他確認のうえ承認 ・受付 No584 金子智一、申請 41.5 単位更新 2 回⇒研修手帳その他確認のうえ承認 ・受付 No585 山内泰代、申請 42.5 単位新規⇒研修手帳その他確認のうえ承認 ・受付 No586 吉野絵理、申請 44 単位更新 2 回⇒研修手帳その他確認のうえ承認 ・受付 No587 安龍治、申請 38 単位更新 2 回⇒研修手帳その他確認のうえ承認 ・受付 No588 近藤郁子、申請 37 単位更新 4 回⇒研修手帳その他確認のうえ承認 ・受付 No589 篠田繭子、申請 47 単位更新 2 回⇒研修手帳その他確認のうえ承認 ・受付 No590 加藤剛、申請 50 単位更新 3 回⇒研修手帳その他確認のうえ承認 ・上記 11 人について委員会として申請に基づく認定薬剤師適否判定表に沿って審議し、10 名承認、1 名未承認とした。 <p>[2] その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回、e ラーニングについて受講したすべての単位が認定されると思い込み申請してきた例があった。e ラーニングについて本会ではコロナ禍の影響で 2021 年 9 月 30 日までは 20 単位を認めていた。今回の申請では期間を見落としていたようであった。No 581 については本人に連絡して今後の対応をアドバイスすることとなった。 ・今回の会議ではインターネットでの研修について本会実施要綱がわかりにくい部分が生じてきたと思われ今後見直しを行っていくこととなった。
次回開催予定	2022 年 3 月
文責者	濱浦陸雄

埼玉県病院薬剤師会生涯研修センター
第36回 地域研修部会 議事録

開催日時	2022年1月27日(木) 18:30～19:30
開催場所	WEB開催(ZOOM)
出席予定者 (敬称略)	東ブロック：木村、新井真、鈴木、林 西ブロック：古高、黒下、唐澤、加藤 北ブロック：岩崎、吉田、磯田 中央ブロック：与那覇、井上 委員長：長谷部、新井(進行)
報告及び 懸案事項	<p>▶ 2021年度開催結果報告</p> <p>◎ 4ブロック合同研修会(基礎編)</p> <p>・日時 2021年7月8日(金) WEB開催 <u>総合評点：3.7</u></p> <p>【講演】</p> <p>講師：サンド株式会社高田徳行様 『 サンドの医療安全と治療満足への取り組み ～オンコセーフとAG製品のご紹介～ 』</p> <p>【特別講演】</p> <p>講師：明石医療センター 薬剤科長 寺沢 匡史 先生 『薬立つ指導記録の書き方 基礎編 ～シンプルで分かりやすい伝わる記録を書こう～』</p> <p>◎ 第34回ネットカンファレンス研修会</p> <p>・日時：2021年11月19日(金) WEB開催 <u>総合評点：3.4</u></p> <p>【講演1】</p> <p>講師：医療法人慈桜会 瀬戸病院 成宮 学 先生 演題名：高齢者糖尿病の病態と治療戦略(食事運動薬物療法)について</p> <p>【講演2】</p> <p>講師名：京都第二赤十字病院 友金 幹視 先生 演題名：『中小病院といっしょに取り組むフォーミュラリー ～インスリン分泌促進系の推奨度を考える～』</p> <p>○ 今後取り上げてほしいテーマや担当の研修部会への意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中治療薬と地域連携 ・コロナの検査と治療薬 ・地域連携の実例 ・検査値の解説 ・在宅医療での薬剤師の役割 ・ポリファーマシー ・今回の内容で調剤薬局の方がどのように対応しているか、実際の経験について聞いてみたい <p>▶ 2021年度今後の開催予定研修会</p> <p>◎ スキルアップ研修会</p> <p>高血圧・心疾患領域</p> <p>【日時】 2021年12月から2022年2月で検討</p> <p>※ 新型コロナのため、2022年度に開催時期を変更することになった</p>

◎ 4 ブロック合同研修会（応用編）

【日時】 2022 年 月 日（ ）

『薬立つ指導記録の書き方 応用編

～シンプルで分かりやすい伝わる記録を書こう～』

明石医療センター 薬剤科長 寺沢 匡史 先生

※ 新型コロナのため、2022 年度に開催時期を変更することになった

2022 年度の活動計画について

【事業計画】

会員の基礎知識や技術力向上のために講演や実技演習を通して基本的事項を中心に研修会を企画・運営している。定期的な研修会はスキルアップ研修会（年 1 回）、地域ネットカンファレンス（年 1 回）、各ブロック研修会（東、西、中央、北で年 1 回）を開催する。スキルアップ研修会と各ブロック研修会は、薬学教育モデル・コアカリキュラムで示された 8 疾患をテーマとして取り上げており来年度も継続して実施していく。

【予算】

	予算額
地域研修部会	
地域別研修懇談会	400,000
ネットカンファレンス	100,000
スキルアップ研修会	100,000

◎ 4 ブロック合同研修会（応用編）

座長：岩崎先生、質疑担当者：井上先生

【日時】 開催時期は他の研修会と調整 開催方式（集合研修 or WEB）は
今後検討する

【講演】 18:45 ～ 19:00

【特別講演】 19:00 ～ 20:30

『薬立つ指導記録の書き方 応用編

明石医療センター 薬剤科長 寺沢 匡史 先生

◎ スキルアップ研修会 2022

座長：岩崎充先生、質疑担当者：鍵山智樹先生

【開催内容】 高血圧・心疾患領域

【日時】 開催時期は他の研修会と調整 開催方式（集合研修 or WEB）は
今後検討する

【講師】 高血圧・循環器病予防療養指導士（薬剤師）

・ 開催済み研修会

2017 年度 精神疾患

2018 年度 感染症

2019 年度 糖尿病

	<p>2020年度 新型コロナのため中止 2021年度 新型コロナのため中止</p> <p>*実務実習に向けた8疾患：がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症</p> <p>◎ネットカンファレンス2022 【開催内容】 検査値と腎機能（基礎的な内容での講演） 【日時】 開催時期は他の研修会と調整 開催方式（集合研修 or WEB）は今後検討する</p> <p>【事務連絡】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当研究部会、メーカー開催に関わらず、ZOOMを使用しての研修会の場合ホストとして地域研修部会の委員が事務局に必要との報告があった。次回の研修会より実施する。 ・理事会からの報告で実地の研修会はとりあえず3月まで延期するとの報告があった。 <p>【検討事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ZOOMのブレイクアウトルームを利用してのSGDを行う研修会の開催にて提案があった。ファシリテーター等の負担が多いと思われるが、実施方法等に関して検討していくことになった。
次回開催予定日 場 所	未定
文 責 者	長谷部忠史

埼玉県病院薬剤師会生涯研修センター
第31回 専門研修部会（がん部会） 議事録

開催日時	2022年1月12日（火）18：00～19：00
開催場所	各施設（ZOOM会議）
出席者 （敬称略）	鈴木栄、中山季昭、川田亮、伊藤剛貴、国吉央城、相川晴彦、畠山朋樹 片山明香、吉川聡美
欠席者 （敬称略）	源川良一
報告及び 検討事項	<p>今後の研修会について</p> <p>①来年度も web 開催を主に行うか</p> <p>②コロナ禍の状況で（条件付き）ハイブリット形式</p> <p>③実技研修の開催の可否</p> <p>④新たな研修（SGD等）：土曜日又は日曜日開催</p> <p>⑤集中講義：土曜日（半日）、従来通り（日曜日）日本薬科大学</p> <p>→・現時点で日本薬科大学の借用は不可（実技研修、集中講義の開催は困難）</p> <p>・SGDは準備にかかる時間、また参加層に偏りが出る可能性あり</p> <p><u>*来年度は引き続き平日 web 研修会（年4回）の方向へ</u></p> <p><u>但し、COVID-19の感染状況次第では②～⑤研修会開催も検討⇒来年度予算案へ入れる方向へ</u></p> <p>【研修会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開始時間は18：40を目安に完全終了を21：00で調整 ・研修会は昨年と同様に演者2名（1人60分）で検討 ・支持療法をテーマとした研修会開催（テーマ2 or 3有害事象に対する支持療法） ・今回JASPOの筆記試験でキナーゼ阻害薬の問題が多く出題されていた ・参加者の中にはJASPOの認定を目指している人も多く、知識の構築を目的とし研修会開催 <p>第100回：4月第3週 テーマ：乳がん（座長：源川先生 基調講演：岩井先生 特別講演：佐藤先生）</p> <p>第101回：7月13日 or 14日（担当：伊藤先生チーム） テーマ：大腸がん（+ポート管理 or 遺伝子変異 or 薬薬連携）</p> <p>第102回：11月9日 or 10日（担当：相川先生チーム） テーマ：キナーゼ阻害薬とは</p> <p>第103回：2023年1月18日 or 19日（担当：伊藤先生チーム） テーマ：支持療法</p> <p>第104回：2023年4月19日 or 20日（担当：相川先生チーム） テーマ：未定</p> <p><u>その他</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム編成：変更なし ・委員の増員：男性1名、女性1名を検討、候補者がいれば委員会で検討
次回開催日	未定
文責者	源川良一

埼玉県病院薬剤師会生涯研修センター
第15回 専門研修部会（感染制御領域）

開催日時	2022年2月4日（金）18：00～19：15
開催場所	オンライン会議
出席者	大澤雄一郎、熊倉悠人、本石寛行、井田真仁、伊賀正典、須賀宏之 欠席：岸野亨、小田まゆみ、戸塚香、塩田香里
報告及び 検討事項	<p>内容：2022年度感染制御領域研修会の計画 以下の内容・テーマについて共催や演者の都合を考慮し検討していく。</p> <p>① TDM の研修会について 今年度はガイドライン改定されないため開催は延期⇒3月にガイドラインが できれば、2022年5月～6月あたりに開催予定。座談会形式。単位（日病薬） は問題ないか？ 進行：大澤（埼玉医大総合） 大規模施設：独協大学埼玉医療C（佐野） さいたま赤十字（伊賀） 中規模施設：深谷赤十字（須賀） 小規模施設：至聖病院（塩田）</p> <p>◆第1回 TDM 業務の日々の疑問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①測定項目 ②測定方法（院内・外注）③測定件数（月） ・シミュレーションソフトについて ・TDM 実施率（VCM・TEIC・AGs など） ・フィードバック方法 ・受け入れ率 ・実施率向上に向けた取り組み など <p>◆第2回 TDM 業務の実践について（症例を交えて）</p> <p>大規模施設：独協大学埼玉医療C（井田） さいたま自治（熊倉） 中規模施設：草加市立病院（本石） 小規模施設：小田医院（小田）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成功例・失敗例 ・第1回開催後に質問受付し2回目で回答する（google formなどで） 等 <p>②画像関連 AST に使える画像検査全般 CT、胸部X線など 梶原先生 病薬の予算で検討していく</p> <p>③グラム染色・細菌検査 前橋赤十字病院 感染症科 副部長 林先生 中外製薬株式会社に共催を依頼 伊賀先生からの前橋赤十字病院の薬剤部経由で交渉を検討</p> <p>④MRSA 関連（保留）</p>

	<p>⑤血液領域 or FN Meiji Seika ファルマに交渉（大澤先生）</p> <p>⑥プラチナマニュアル de-escalation に迷うとき 培養陰性の場合 不明熱の対応 大日本製薬に交渉（大澤先生）</p> <p>共催メーカー：大日本製薬（なんでも OK）、杏林製薬（呼吸器）、 Meiji Seika ファルマ（MRSA、血液内科）、中外製薬（なんでも OK）</p>
次回開催日	未定
文責者	岸野亨

埼玉県病院薬剤師会生涯研修センター
第 34 回 精神科領域委員会 議事録

開催日時	2022 年 1 月 6 日 (木) 18:00 ~ 19:00
開催場所	オンライン
出席者	石川章、大久保由衣、粕谷聡、白石佳子、須田修輔、出川えりか、山下芳江、渡邊康一
検討事項	<p>今後の研修会でのテーマについて 過去 3 回のアンケートに基づく今後取り上げてほしいテーマ</p> <p>1, 疾患について 統合失調症、不安障害、睡眠障害、てんかん、自閉症スペクトラム 小児、高齢者</p> <p>2, 実務的な内容について 薬薬連携、クロザリル利用促進のための病院間の連携及び調剤薬局との連携 フィジカルアセスメント、ポリファーマシー、臨床薬学統計 小規模病院における病棟業務実施加算の算定業務を立ち上げ 実際の状況や薬剤師の役割、精神疾患患者に対する対応方法</p> <p>3, 薬剤について 薬の比較、小児・高齢者の薬物療法 肝不全、腎不全時の薬剤使用</p> <p>・ 2022 年 3 月後半のオンライン研修会のテーマについて。 テーマ：「(仮) イタリア人医師から見る日本の精神科医療」 講師：フランチェスコ・パントー先生 座長：須田修輔 共催メーカー：大塚製薬</p> <p>・ 次回以降、精神科薬物療法研修会オンラインの開催予定について。 過去 3 回のテーマ：双極性障害、多職種連携と LAI、うつ病について 2022 年 6 月頃 テーマ 「診療報酬について」「精神科病院薬剤師の業務」 吉富薬品 2022 年 10 月頃 テーマ「てんかん (水村先生)」「薬剤師が知っておくべき てんかんの基礎知識 病態・分類 治療と生活サポート (西新潟中央病院神経小児科遠山潤先生)」 UCB ジャパン 2023 年 2 月頃 テーマ「クロザピンの血中濃度測定の意義」 (シリーズ化) 共催メーカー (ここ最近の共催メーカー：メイジセイカ、大塚製薬、エーザイ、東和薬品、 吉富薬品、大日本住友)</p> <p>・ 今後の薬物療法研修会の開催の頻度について 年 3 回程度が現在の頻度。</p>
次回開催日	年 3 回くらいを目安に開催
文責者	須田修輔

埼玉県病院薬剤師会生涯研修センター
第6回 専門研修部会（妊婦授乳婦・小児科領域）議事録

開催日時	2022年3月2日（水）18：00～19：00
開催場所	オンライン
出席者	伊藤幸、鵜飼さおり、磨田真理子、武田直樹、長谷川まゆみ、松村隆、綿野麗美 欠席：岸野亨
議 題	<p>議題1：今年度の研修会開催について 令和3年度は各領域1回ずつ、計2回開催した。 小児科領域－令和3年7月13日（火） 妊婦・授乳婦領域－令和4年1月17日（月）</p> <p>議題2：令和4年度の開催について 来年度は、妊婦(1)、小児(1)以上を目標としたい。</p> <p>1) 小児科領域研修会について 7月頃開催を視野に入れて進めていく方針となった。 【候補として話題に挙げた企業・テーマ】 ①共催企業－沢井製薬株式会社 ・小児の抗生剤の適正使用 ・ワクチンの小児への適応拡大について ・疾患に対する用量の選択 →「小児のAST」（抗生剤の適正使用）というテーマで打診を行うこととなった。 講師の選出はまた別途検討していく。 座長：松村先生（予定）</p> <p>2) 妊婦・授乳婦領域研修会 9月以降の開催を視野にいて、進めていく方針となった。 【候補として話題に挙げた企業・テーマ】 ・性感染症（ファイザー）梅毒－ステルイズ ・HPV ワクチン（MSD） ・免疫疾患の妊婦 ・コロナ陽性の妊婦の感染管理について（出産後、子との隔離、授乳） COVID-19 のみにとどまらず、感染症全般における妊婦・授乳婦の管理について研修会を開催したいとの意見があがった。 →ファイザーとMSDに打診を行うこととなった。</p> <p>議題3：研修部会の在り方について 今後も妊婦授乳婦・小児科領域は一つの研修部会として活動を継続していくことを確認した。</p>
次回予定	未定
開催場所	未定
文責者	岸野亨、長谷川まゆみ

埼玉県病院薬剤師会生涯研修センター
第 135 回輸液・栄養管理研修部会議事録

開催日時	令和 4 年 2 月 8 日 (火) 18:00 ~ 18:35
開催場所	WEB Zoom
出席者	小杉隆祥、奥富秀典、鈴木慶介、井上芳洋、小林睦之、宮森亜紀子、茂木隆裕
欠席者	太田
協議事項	<p>◆第 132 回 輸液・栄養管理研修会 (オンライン) 発信済み 日程：3 月 8 日火曜日 18 時 30 分～ 20 時 15 分 講師：西吾妻福祉病院 薬剤室 門脇寛篤 先生 内容：薬剤師としての褥瘡治療と栄養学 協賛メーカー：アボットジャパン合同会社 形式：オンライン 講師は現地から、委員は事務局に集合 (可能な先生は手を挙げてください) 座長・司会：鈴木慶介 18:30 - 18:45 アボットからの情報提供 18:45 - 20:15 講演 (質疑応答込み) 内容は褥瘡治療が 6 割程度になりそう。栄養の内容を盛り込んでもらうように依頼している。 日病と病薬の認定シールを申請済み。</p> <p>◆令和 4 年度の研修会について 回数：年 3 回 (6 月、10 月、2 月) を予定、追加は可能 テーマ (案) 6 月：第 2 火曜日 (6/14) リハ栄養・薬剤 講師候補：中道真理子先生 (原土井病院) or 中村直人先生 (公立陶生病院) 中道先生から打診していく。栄養と薬剤の内容を依頼する 協賛メーカー候補：大塚製薬工場 (予定)</p> <p>10 月：第 1 火曜日 10/4 心不全と栄養 講師候補：未定 神奈川と関西で心不全栄養研究会がある。その辺りから候補を探ってみる。 協賛メーカー候補：ネスレ (予定)</p> <p>2 月：第 2 火曜日 2/14 委員で 3 演題程度 テーマは未定</p> <p>◆委員の変更について ・表先生が転職され委員から外れたため、新しい委員の追加を検討した。 ・上尾中央総合病院の小林このみ先生、川口医療センターの沢辺正和先生を候補として挙げる。</p>
次回開催	未定
文責者	小杉隆祥

●●●●●●●●●●
事務局だより
●●●●●●●●●●

第36回 新体制と2024年日病薬第54回関東ブロック学術大会

皆様ご存じの通り、2022年度5月通常総会で本会役員選挙が行われ、現在新体制が始まっており、すべての活動は理事会での決定の下に動き出しております。

新年度第1回理事会は通常総会終了後の同日に開催され、それまでの理事5名が任期を終了し、新しい方5名が理事となりました。そして新会長、副会長も決まり新体制がスタートしたのです。本日までですでに6月、8月と新体制での理事会が開催され様々なことが決定しております。

ひとつは各理事が主として受け持って活動をする委員会の担当の決定でした。これは各々の方々の得意分野を踏まえて決められております。

もうひとつは各委員会の働きを明文化しようとする動きです。これは今まで委員会活動がその委員会任せで動いていたことを振り返りこの辺りできちんと整理したいということからはじまりました。出来上がれば定款の下に位置付く規定となるでしょう。なかなか踏み切れなかったことですからかなりの大仕事になるはずで今年度内に完成できれば“御の字！”まずは取り組み開始なのです。

さらにもう一つは2024年日病薬第54回関東ブロック学術大会（以下2024関ブロと略）の準備実行委員会の発足です。

準備実行委員会委員には今までの活動をもとに7名が会長より指名されました。もちろん事務局と（株）メディセオも諸事の支援を行うということで常に参加することとなっています。

皆様ご記憶の通り2014年8月の第44回関ブロから10年が経ちました。この時のデータをもとに計画はスタートですが大きく違うのは現在“コロナ禍真只中”という状況です。新型コロナは2019年12月に中国で発見されたことが始まりで、2020年第50回関ブロ（東京担当）と2021年第51回関ブロ（長野担当）は完全なWeb開催、2022年第52回関ブロ（神奈川担当）はハイブリット開催（現地開催＋オンデマンド配信）、そして2023年第53回関ブロ（新潟担当、詳細未定）とほぼ配信を取り入れた形に変わってきております。ですから2024関ブロはどのような状況になるかは今現在読めない！のです。でも、放ってはおけない！ということで10年前の時より1年早い準備実行委員会の発足なのです。ソニックシティビル・大宮パレスホテルの押さえもしました。次はテーマとポスター、スケジュール決定するなど、状況を見ながら丁寧に進めていくのみです。

皆様、準備実行委員会での下拵えができましたら多分年明けにはいよいよ実行委員会のスタートです。“我こそは実行委員に”と思う方は事務局にご連絡ください。事務局2人は関ブロスタッフとしては3～4回目の参加となりますがあまりの状況の変化に戦々恐々なのです。新たなオタスケマン大募集中なのです。よろしくお願ひします。

（記 中村）

認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ予約登録について

『ワークショップ受講希望の方へのお知らせ』（H 28. 4. 1 HP掲載）に基づいて希望者の予約登録を受け付けます。

講習詳細が決定しましたら予約登録している方々に申し込み順でTEL またはメールにてご都合伺いを差し上げます。

申し込み前の確認事項：申し込み時、本会の会員であること。

現在所属施設に認定実務実習指導薬剤師が不在のため、

平成 29 年度からの実務実習が行えないこと。

申し込み時実務経験 5 年以上

申込方法：埼玉病薬ホームページより下記フォーマットをダウンロードしてFAX またはメールでお申し込みください。

登録申込先：E-Mail jimukyoku@saibyoyaku.or.jp

(一社) 埼玉県病院薬剤師会 事務局 TEL:048-829-7698 FAX:048-829-7952

〒 330-0063 埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-12-24 小峰ビル 401

(一社) 埼玉県病院薬剤師会
実習教育委員会

実務実習指導薬剤師養成講習会予約登録票

申込年月日	令和 年 月 日
参加希望者 (必要事項を記入 または 選択して丸で囲む)	氏名 (ふりがな) 性別 生年月日 メールアドレス (PC) (ない場合は住所を記載) 携帯番号 座学聴講状況 受講済 受講未 実務経験年数 (本紙提出時) 年 所属施設での職位 部長 主任 係長 その他
所属施設情報	施設名 (病床数) 住所 〒 TEL FAX 薬剤部門メールアドレス 薬剤部門長氏名
院内の実務実習指導薬剤師数	名
過去の実習生受け入れ状況	() 年 (なるべく最新情報で記入のこと) 1期 (名) 2期 (名) 3期 (名)

ただし、予約可能人数には限りがありますのでご了承ください

会員届出用紙

入会異動年月日西暦 _____ 年 _____ 月 _____ 日

一般社団法人埼玉県病院薬剤師会会長殿

下記の通り届出致します。

届出者氏名 _____

届出事項	届出事項 (○で囲んでください)		
	・入会 ・退会 ・変更 ⇒ ・改名 (旧氏名欄に記入のこと) ・住所 ・勤務先 (旧勤務先欄に記入のこと) ・会員区分 (旧区分 A B C D ⇒新区分 A B C D)		
全て記入して下さい	フリガナ		性別
	氏 名		男 女
	生年月日		会員区分 (○で囲んでください)
	西暦	年 月 日生	A B C D
	自宅住所 〒		
	電話番号		
	薬剤師名簿登録番号		日病薬会員No
	第	号	
最終学歴			
大学・大学院名			
卒業・修了年 (修士 博士) 西暦 _____ 年卒			
勤務先			
施設名		(床)	
住所 〒			
電話		FAX	
旧氏名		旧勤務先 施設名	

*** 記入上の注意：**

- 1) 異動があった場合は、速やかに事務局にFAX、郵送、E-mail添付で提出して下さい。
- 2) 会員区分 (一般社団法人埼玉県病院薬剤師会定款第3章参照)
 - A 正会員で日本病院薬剤師会+埼玉県病院薬剤師会に入会の方
 - B 正会員で埼玉県病院薬剤師会に入会の方
 - C 正会員以外で日本病院薬剤師会+埼玉県病院薬剤師会に入会の方
 - D 正会員以外で埼玉県病院薬剤師会に入会の方

*** その他の注意**

- 1) 入会は理事会の承認のうえ決定する。
- 2) 届け出内容は会員名簿、会誌に掲載する。
- 3) 会費が期限内に納入されない時、処分対象となる場合がある。
- 4) 一旦納入された会費は返還されない。

* 一般社団法人埼玉県病院薬剤師会 事務局

TEL 048-829-7698 FAX 048-829-7952 E-mail jimukyoku@saibyoyaku.or.jp

原 稿 募 集

時下 会員の皆様においては益々ご健勝にご活躍のこととお慶び申し上げます。常日頃より埼玉県病院薬剤師会の活動にご理解、ご協力いただきまして心より感謝申し上げます。おかげさまで広報誌の「埼玉病薬」は号を重ねるにつれ、会誌の内容が充実してまいりました。会員の皆様には引き続きご協力をいただき、広報誌の内容を一層充実させるため多くのご投稿をお願い致します。

掲載内容について

<会員のひろば>

特にテーマは設けておりません。日常業務での新しい発見や業務上工夫している内容、学会や研修会に参加した感想・報告、そのほか個人の趣味など仕事に関係あるなしに係らず原稿を募集しています。

<学会報告>

学会、後援会で使用したスライド、ポスター、要旨、発表原稿、論文などを募集しています。

<薬局業務紹介>

薬局内の業務で、特に他の施設へ紹介したい自慢できる業務内容や、新しく始めている取組みなどについて原稿を募集しています。薬局全体の紹介ではなく、特定の業務や取組みについて紹介をお願い致します。

それぞれの原稿には写真や図表は自由に入れていただけます。ユニークな原稿の投稿をお待ちしております。

原 稿 規 定

執 筆 者 : 会員の皆様どなたでも

原稿レイアウト : 【原稿用紙】 A4判、45字×40行
(タイトル含む)を原則とする
【タイトル文字】 12Pt MS ゴシック
【本文】 10.5Pt MS 明朝
【余白】 上下 20mm 左右 22.5mm

締 切 日 : ● 2022年11月15日
発行予定 : 2023年1月
(Vol.30 No.1 2023)

編集後記

2022年度5月の通常総会で埼玉県病院薬剤師会役員選挙が行われ、新たな理事の先生方のもと新体制が始まっています。会長にはさいたま赤十字病院の薬剤部長である町田充先生が就任されています。広報委員会も新たな体制のもと、広報誌の活動を通じて会員の先生方にさらなる情報発信が行えることを目指し、引き続き活動に力を入れていきます。

広報誌に先生方のご活動をご紹介させていただく際には原稿をお願いさせていただくこともありますが、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

K.N

埼玉県病院薬剤師会

Vol. 29 No. 3 令和4年9月

発行者 一般社団法人 埼玉県病院薬剤師会

会長 町田 充

住 所 〒330-0063

さいたま市浦和区高砂 3-12-24

小峰ビル401

TEL 048-829-7698

FAX 048-829-7952

E-Mail jimukyoku@saiibyoyaku.or.jp

印刷 株式会社 サンアロー

住 所 〒334-0005 川口市里1191-245

